

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書

(平成26年度事業)

平成27年10月

大郷町教育委員会

.....

～ は じ め に ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロール※により、政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映を図るものとして、戦後わが国に導入され、地方教育行政の基本的な制度として定着しています。

また、地方分権の進展や教育に関するニーズの高まり、教育委員会の担任業務の多様性や専門性などから制度創設時から現在に至るまで、随時、制度改正を重ねてきました。

このような中、平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月から施行されました。

この改正法の大きな柱の一つであります「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、効果的な教育行政に資するとともに住民への説明責任を果たすため、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務付けられました。

本町教育委員会においては、毎月、教育委員会会議を開催し、教育行政に係る基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施策に関する研修、教育施設への視察等を行うなど、事務局と連携しながら、積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めてきました。

さらには、教職員との教育懇談会を開催するなど、さまざまな関係組織と連携しながら、開かれた教育委員会の推進に取り組んでいるところです。

本報告書では、今後のさらなる効果的な教育行政の推進に資するために、学識経験者のご意見等をいただきながら、平成26年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果を報告いたします。

平成27年10月

大郷町教育委員会

.....

※「レイマンコントロール」は、専門家だけの判断に偏ることなく、住民のニーズを適切に施策に反映させる仕組みである。

大郷町教育委員会事務事業 点検・評価報告書
(平成26年度事業)

目 次

I	点検・評価の概要	1
1	点検・評価の趣旨	1
2	点検・評価の対象及び方法	1
3	学識経験者の知見の活用	1
II	教育基本方針	2
1	大郷町教育基本姿勢	2
2	平成26年度教育基本方針	2
3	平成26年度教育重点施策	2
III	教育委員会の活動状況	8
IV	教育重点施策等の点検・評価	10
1	学校教育	10
(1)	幼児教育 (幼稚園)	10
(2)	義務教育 (小学校)	14
(3)	義務教育 (中学校)	18
(4)	学校給食	23
2	社会教育	25
(1)	社会教育の充実	25
(2)	公民館活動の充実	29
(3)	社会教育施設	42
(4)	社会教育指導者との連携	43
(5)	社会教育団体の活性化・支援	43
3	生涯スポーツの推進	44
(1)	生涯スポーツの活性化	44
(2)	生涯スポーツ指導者の支援	49
(3)	生涯スポーツ団体の活性化支援	49
(4)	生涯スポーツ施設の整備と活用促進	50
4	文化財	51
(1)	文化財の理解	51
(2)	文化財の保存・継承	52
(3)	文化財関係機関 (団体) の連携	52
V	点検・評価に対する学識経験者の意見	53

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、本町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価を実施する。

2 点検・評価の対象及び方法

本年の点検・評価の対象事業は、平成26年度教育基本方針に基づく重点施策や具体的な事業等を対象とし、その主な取り組み状況についての点検及び評価を実施した。

本町教育委員会による点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を本町議会に提出するとともに、町民に公表を行う。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の実施にあたっては、学識経験を有する3名の方々に依頼し、点検・評価の内容についての意見を伺った。

氏 名	役 職 等
赤 坂 正 夫	大郷町社会教育委員長 大郷町子ども会育成会会長 宮城県子ども会育成連合会副会長 大郷町青少年健全育成町民会議会長
渡 邊 文 子	元大郷町教育委員 大郷町文化協会郷乃会会主
大久保 せち子	元大郷町主任児童委員 大郷町子ども子育て会議委員 元大郷町立幼稚園教諭

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 教育基本方針

大郷町教育基本姿勢

おおさとは、美しい山河、豊穡な土地に恵まれ、農業を基幹産業にしてきた。また、仙台市、塩竈市等の都市に近く、以前から多くの人々が通学・通勤してきた。そうした特性を生かし、「農村」と「都市」そして「人」が共生する『田園都市づくり』を推進している。

その礎は、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育」であり、故郷の心を大切にして、新しい時代を拓く『心豊かでたくましく生きる人間の育成』を一層充実させるため、学校や家庭及び地域社会が協働しながら教育を推進する。

平成26年度教育基本方針

夢を描き 創造し 健やかで 活力ある田園都市づくりを目指し

自分を磨き、豊かな学びを育む生涯学習の推進

創意と活力に満ちた、特色ある学校教育の推進

芸術・文化活動の推進と伝統文化の保存・継承

健康・夢・触れ合いを育む生涯スポーツの推進

を重点に、学校・家庭・地域協働のもと、生涯にわたる教育の充実に努める。

平成26年度教育重点施策

☆ 生涯学習

町民一人一人が、生涯を通し自分を磨き、豊かな生活と、活力と潤いのあるまちづくりができる、豊かな学習体制の充実を図る。

1 学校教育

学校教育は、人間尊重の精神に立ち、社会の変化に適切に対応できる、豊かな人間性の育成を目指して行う。

そのために、学校が創意工夫し、子どもの多様な能力や学習意欲を高め、自立して生きるための基礎・基本の確実な定着を図り、夢と志を持ち、その実現に向け努力する心身ともに健やかな子どもの育成に努める。

(1) 幼児教育

幼稚園教育と保育園保育の特性を理解し、尊重し、一体化をしながら、幼児教育の充実に努める。

- ① 保育園と一体化した教育の推進
- ② 学びの連続性を踏まえた教育の推進
- ③ 特別支援教育の充実
- ④ ふるさとの人・歴史・文化と触れ合う教育の推進
- ⑤ 教職員の資質の向上
- ⑥ 関係機関との連携強化
- ⑦ 魅力ある教育環境の充実

(2) 義務教育

夢と志を持ち、その実現に向け、豊かな人間性・学ぶ力と自立する力・たくましく生きるための健康と体力を基に、主体的に考え判断し、行動できる児童・生徒の育成に努める。

- ① 創意と活力に満ち信頼される学校教育の推進
 - 1) 学習指導要領に基づく教育課程の編成と実践
 - 2) 学校・家庭・地域の協働による教育の推進
 - 3) 特別支援教員補助者（町費）の配置と、スクールカウンセラー（県費）の活用
 - 4) 地域文化との触れ合いによる、郷土を愛する心の育成
 - 5) ボランティアによる登下校指導
- ② 豊かな人間性や社会性の育成
 - 1) 道徳教育の充実
 - 2) 志教育の推進と支援体制の整備
 - 3) 心が響きあう人間関係の樹立
 - 4) 適応指導教育の充実
 - 5) 自然体験学習の推進と支援
 - 6) 自然・遺産等への畏怖心醸成
- ③ 学ぶ力と自立する力の育成
 - 1) 基礎基本の定着と、活用能力を高める指導の改善
 - 2) 個の能力に応じた指導の工夫と実践
 - 3) 少人数指導の充実
 - 4) 宮城教育大学との連携による、課外指導の充実
 - 5) 読書の推奨と図書館教育の充実
 - 6) 保護者との連携を強化し、学ぶ意欲の高揚と家庭学習の充実
 - 7) 地域の人材活用

- ④ **健康な体づくりと体力・運動能力の育成**
 - 1) 個の体力に応じた運動量確保の指導計画作成と指導
 - 2) 学校の環境を生かした体づくり計画作成と実践
 - 3) 業間休憩を活用した体づくり推進
 - 4) 健康教育を通して、生涯スポーツの基礎・意欲を培う指導の推進
 - 5) 食育指導の充実
 - 6) バス待機時間の身体活動奨励
- ⑤ **一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実**
 - 1) 個々の児童・生徒の障害・発達の状況に応じた指導計画の立案と実践
 - 2) 特別支援教員補助者(町費)の配置とスクールカウンセラー(県費)の活用
 - 3) 通常学級・地域との交流推進
 - 4) 関係機関との連携強化
- ⑥ **防災教育の推進**
 - 1) 危険を予測し、回避する能力を高める教育の推進
 - 2) 地域と連携した防災教育の推進
- ⑦ **教員研修の充実**
 - 1) 多様で特色ある教育実践が可能な指導力向上を図る研修の充実
 - 2) 使命感の高揚と実践応力の向上を図る研修の充実
 - 3) 危機管理能力を高める研修の推進
 - 4) 宮城教育大学との連携による授業力の向上
- ⑧ **幼・小・中一貫教育の充実**
 - 1) 子どもの特性理解と、個に応じた継続的指導の推進
 - 2) 指導の重複を省いた効率的な指導の推進
 - 3) 子どもの校種間交流の推進
 - 4) 他校種の指導内容を理解する教員研修の充実
- ⑨ **信頼され、魅力ある教育環境の整備**
 - 1) 防災対策を充実させ、安全で信頼される教育環境の整備
 - 2) 地域の教育力が生きる学習環境の創設
 - 3) 学習意欲を高揚させる備品・教材・教具の整備
 - 4) 魅力ある教育活動を推進する人材の確保・活用

2 社会教育

町民が、いつでも身近で、望む学習が可能な生涯学習体制の整備を推進する。

(1) 社会教育の充実

① 社会教育の活性化

- 1) 各種講座の開設と、継続的活動の支援

- 2) 生涯学習情報の発信
- 3) 社会教育指導者の育成
- 4) 家庭・地域が学校と連携して活動できる体制整備の推進
- 5) 放課後子ども教室（郷子舎）の充実

② 芸術・文化活動の推奨

- 1) 郷土芸能（無形文化財等）の継承と活動支援
- 2) 学校と連携した郷土芸能の紹介と取組奨励
- 3) 郷土芸能の指導者育成支援
- 4) 郷土芸能の備品整備
- 5) 文化協会との連携強化
- 6) 町民劇場への活動支援

③ 家庭及び地域の教育力向上と活性化

- 1) 各種家庭教育事業の開催と活動継続への支援
- 2) 地域における指導者支援
- 3) 各種情報の提供
- 4) 食育の推進と家庭づくりの見直し推奨

④ 青少年教育の充実

- 1) 各種研修会の開催と町外研修会への参加促進
- 2) 年少指導者の育成と指導機会の提供
- 3) 各種体験活動への参加促進
- 4) 青少年教育指導者の組織化・活動支援
- 5) 青年団体支援と各種事業への参加・協力推進
- 6) 各種生涯学習・関連事業の情報発信

⑤ 公民館活動の充実

- 1) 学習意欲が高まる魅力的な環境の整備
- 2) ライフステージを踏まえた事業の展開と継続的活動の促進
- 3) 各種団体の活動支援
- 4) 指導者の研修充実
- 5) 地域に密着した活動の推進
- 6) 地域に根ざした分館活動の活性化支援
- 7) 読書活動の充実
 - ・蔵書の拡充
 - ・出前図書館の充実
 - ・司書職員の配置促進
 - ・図書室（館）の新設・移転の促進
 - ・分館の図書室機能保有促進

(2) 社会教育施設

① 施設の整備・充実

- ・大郷町文化会館
- ・大郷町粕川社会教育センター
- ・大郷町大松沢社会教育センター
- ・フラップ大郷 21
- ・大郷町 B & G 海洋センター
- ・大郷町総合運動場
- ・大郷町町民体育館
- ・大郷町自由広場

② 各施設利用手続きの一元化の推進

(3) 社会教育指導者との連携

(4) 社会教育団体の活性化支援

3 生涯スポーツ

生涯健康で、活力に充ち、生きがいを感じて生活が送れるよう、誰もが参加できる事業の展開と、継続して活動ができる体制の実現に努める。

(1) 生涯スポーツの活性化

- ① 生涯スポーツ振興長期計画の策定
- ② 青少年の夢を育む活動の支援
- ③ 町民の健康・体力の維持増進を図る活動の奨励と支援
- ④ 地域をつくるスポーツ活動の奨励
- ⑤ 生涯スポーツ団体との連携強化
- ⑥ 町・教育委員会の主催行事の活性化と、活動継続の支援
- ⑦ ニュースポーツの普及と継続支援
- ⑧ 出前活動の推進

(2) 生涯スポーツ指導者への支援

(3) 生涯スポーツ団体の活性化支援

(4) 生涯スポーツ施設の整備と活用促進

4 文化財

大郷町には、誇れる文化財が多く現存する。文化財を理解し、畏敬の念を持ち、保存・継承に努める。

(1) 文化財の理解

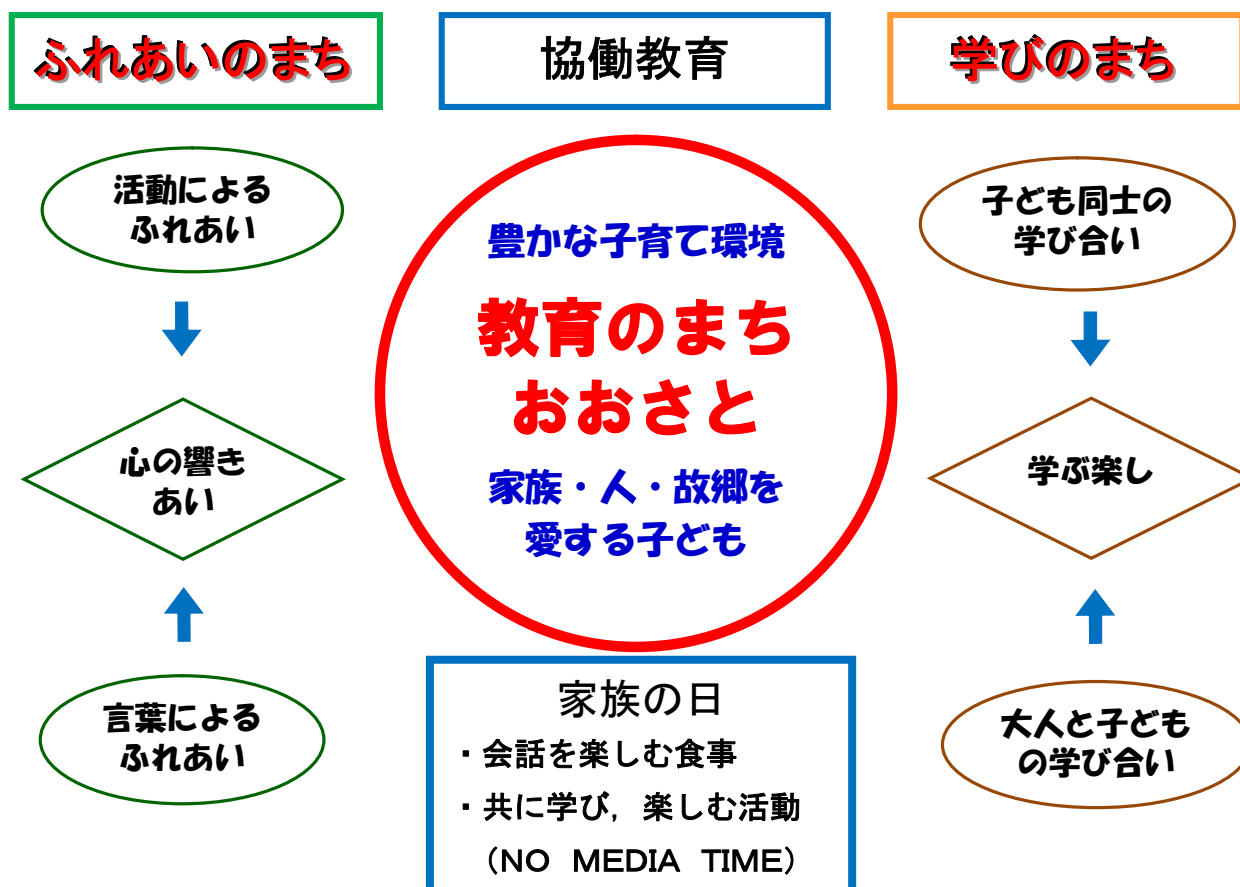
- ① 文化財紹介の情報発信
- ② 見学の機会提供と支援
- ③ 学校・各種団体等での文化財学習機会の拡充

(2) 文化財の保存・継承

- ① 保存施設・遺跡等の情報発信
- ② 収集、発掘、保存体制の整備
- ③ 遺跡の整備
- ④ 歴史民俗資料館の整備充実

(3) 文化財関係機関（団体）の連携

「教育のまち おおさとー自立した人づくりー」を目指して



Ⅲ 教育委員会の活動状況

本町教育委員会では、毎年度、教育基本方針と重点的に取り組む施策を定め、これを基に各種の事業を展開している。

本町教育委員会においては、毎月1回の教育委員会定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催した。

さらに、会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うために、式典等の行事への参加はもとより、学校訪問や視察、定例会終了後の研修等を積極的に行うなど、活発な活動を通じて教育行政の推進に努めてきた。

平成26年度における教育委員会の主な活動状況については、次のとおりである。

1 教育委員（平成26年度在籍者）

職名	氏名	任期
委員長	熊谷泰弘	平成25年6月25日～平成29年6月24日
委員長職務代行者	武田陽子	平成23年10月1日～平成27年9月30日
委員	高橋幸也	平成25年12月1日～平成29年11月30日
委員	武藤光広	平成23年8月17日～平成26年9月30日 平成26年10月1日～平成30年9月30日
委員(教育長)	鹿野毅	平成22年6月18日～平成26年6月17日
委員(教育長)	大友正隆	平成26年7月29日～平成30年7月28日

2 教育委員会活動

項目	回数	活動内容
教育委員会会議の開催	14回	定例会及び臨時会の開催 定例会12回、臨時会2回
教育委員会会議の傍聴者の状況	0人	傍聴者なし
議事録の公開、広報・公聴活動の状況	0件	会議録の開示請求0件
研修会への参加状況	4回	黒川郡町村教育委員会研修会 管内市町村教育委員会研修会 縣市町村教育委員・教育長研修会 東北六縣市町村教育委員・教育長研修会
学校等所管施設訪問	4回	幼稚園、小学校、中学校、学校給食センター

会議の開催状況

区 分	期 日	主 な 付 議 事 件
定例会	平成 26 年 4 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（教育委員会職員人事、協働教育プラットフォーム運営協議会委員） ・ いじめ防止基本方針の制定 ・ 小中連携英語教育推進委員会設置要綱の制定
定例会	平成 26 年 5 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育委員設置条例の一部改正 ・ 準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
定例会	平成 26 年 6 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長の選挙、委員長職務代行者の指定 ・ 人事案件（学校施設の開放に伴う管理員） ・ 平成 26 年度教育費一般会計補正予算（第 1 号）
臨時会	平成 26 年 7 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（特別支援教員補助者、外国語指導助手） ・ 平成 27 年度使用教科用図書採択計画
定例会	平成 26 年 7 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（幼稚園臨時職員） ・ 平成 27 年度使用教科用図書採択 ・ 準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
臨時会	平成 26 年 7 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（教育長人事、教育委員会職員人事）
定例会	平成 26 年 8 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（特別支援教員補助者）
定例会	平成 26 年 9 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年度教育費一般会計補正予算（第 3 号） ・ 人事案件（教育委員会職員人事、特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭等）
定例会	平成 26 年 10 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 25 年度教育委員会事務事業点検・評価報告
定例会	平成 26 年 11 月 25 日	(議案なし)
定例会	平成 26 年 12 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年度教育費一般会計補正予算（第 6 号） ・ 児童生徒就学援助費支給要綱の一部改正ほか 1 件
定例会	平成 27 年 1 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（幼稚園長、幼稚園臨時教諭） ・ 準要保護児童生徒就学援助費受給者の認定
定例会	平成 27 年 2 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 27 年度大郷町教育基本姿勢及び基本方針 ・ 教育長の勤務時間等に関する条例制定ほか 14 件 ・ 県費負担教職員の任免等の内申
定例会	平成 27 年 3 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事案件（学校評議員、特別支援教員補助者、幼稚園臨時教諭、公民館分館長ほか 2 件） ・ 平成 26 年度教育費一般会計補正予算（第 7 号） ・ 平成 27 年度教育費一般会計予算ほか 5 件

IV 教育重点施策等の点検・評価

1 学校教育

(1) 幼児教育（幼稚園）

教育重点施策1 「保育園と一体化した教育の推進」

平成26年度実施状況

○「大郷町の幼児を保育する」という共通認識のもと、幼稚園と保育園が同じ「めざす幼児像」を掲げ、両園の特質を生かしながら保育に取り組んだ。

【めざす幼児像】

- ・じょうぶな子ども
- ・なかよくあそぶ子ども
- ・がんばる子ども
- (元気いっぱい)
- (笑顔いっぱい)
- (夢いっぱい)

【一体化した保育活動推進のために】

- 保育園・支援センター・幼稚園職員による、情報交換と共通理解。
- ・合同職員会議（毎月1回）
 - ・担当者同士の行事、保育の打合せ（随時）
 - ・共通事項の反省・次年度に向けての検討。

【交流活動】

- 年長児交流保育「すくすくタイム」の実施・・・年8回。運動遊び・小学校訪問など
- 夏季休業時の預かり保育への給食提供（保育園から幼稚園へ）
- 自由遊び時の自然交流（虫探し、かけっこなど）
- 合同行事の推進・・・夏まつりの合同開催、ゆかいなコンサートやマジックショーへの参加、防災安全教育（避難訓練・幼年消防・AED・不審者対応訓練など）の合同実施。

評 価

- 防災安全教育は、同施設内にいる全職員で取り組むことによって、共通の防災・防犯意識を持つことができ、不測の事態に備えることができた。
- 年々、幼稚園・保育園の子どもたちの関わりが増えてきていると思う。互いの園での活動を見たり経験したりすることは、活動の幅が広がり成長の一助になっている。
- 夏まつりは、はじまりの会を3歳未満児（保育園のみ）と3歳以上児の会場を別々にしたことによって、会場の狭さが緩和された。

課題と今後の取組

- 幼児の姿を踏まえた合同保育の精選と各園の特色を生かした保育の充実。
- 農園で収穫した作物の交換など、互いの園での活動に興味を持たせ交流意識を高めていきたい。

教育重点施策2 「学びの連続性を踏まえた教育の推進」

平成26年度実施状況

- 家庭から幼稚園へと生活の連続性を図るために。
 - ・保護者との密なる連携・子育て支援のため、随時、教育相談や電話・連絡ノートでの情報交換。情報交換をもとにした指導の検討と実施。
 - ・保護者を対象にした幼稚園教育評価アンケートの実施と分析。
- 小学校への円滑な接続を可能にし、幼稚園教育の成果が引き継がれるために。
 - ・職員間の情報交換。
 - ・就学を見据えて、生活習慣や態度の確立、絵本や図鑑などを通しての知的遊びの充実、言葉による自己表現、その他多様な経験の積み重ねを意識して指導した。

評 価

- 家庭と教育相談や連絡ノートで情報交換したことにより、幼児の成長で支援が必要など、成長の見られたところなど幼児理解に繋がり、連携した成果が見られた。
- 園長と小学校長が兼務だったため、情報交換がしやすく、指導上参考になった。

課題と今後の取組

- 知・徳・体の調和のとれた成長を果たすため、子どもの健やかな成長に必要な、寝る・食べる・遊ぶ・健やかに伸びるの“ルルブル”は大切である。“ルルブル”通信などで啓発を図り、子育て支援に努めたい。
- 小学校との連携の工夫。

教育重点施策3 「特別支援教育の充実」

平成26年度実施状況

- 幼児を理解し適切な支援指導のために、教育相談、指導計画の立案、実践、支援記録簿の作成。支援カードや一日の予定表作成、変容と課題の把握を図る。
 - ・専任の職員配置、専門機関への相談と指導助言の受け入れ、保護者との連携を図る。
 - ・特別支援研修会への参加と伝講。

評 価

- 子どもと職員の1対1指導により、特性や発達に応じた支援をすることができた。
- 特別支援コーディネーターを中心に、記録簿を作成し、職員間で共通理解しながら支援や指導に当たることができた。

課題と今後の取組

- 特別支援児への指導と健常児への指導のバランスが難しい。一人一人、力を発揮し成長させるための調和のとれたクラス経営を検討していかなければならない。
- 研鑽を重ね、職員相互の資質向上を図る。

教育重点施策4 「ふるさとの人・歴史・文化との触れ合う教育の推進」

平成26年度実施状況

- 地域のボランティアグループによる、絵本の読み聞かせや劇を観せていただいた。
- 「道の駅おおさと」での買い物体験、りんご狩り体験を行い、地場産品を知り、地域の方との交流を図った。
- 外国語指導助手ALTとの英語による遊びを実施し、交流を図った。

評 価

- 地域の方との交流は、地域の方を知り、昔話に親しみながら心の豊かさを育むよい機会になった。
- ALTとの英語による遊びを通して、英語や外国人に慣れ親しむきっかけになった。

課題と今後の取組

- 道の駅での買い物体験、りんご狩り体験は幼児のみならず、家庭でも楽しみにしている。家族にも故郷愛を深めていただくよい機会になったので、今後も継続したい。
- ALTとの交流は、国際理解教育につながるよい経験と思う。幼児の発達にあった交流内容を考え、ALTとの触れ合いを楽しませたい。

教育重点施策5 「教職員の資質の向上」

平成26年度実施状況

- 教師の指導力向上と幼児の心身の成長をめざして、園内研修の充実を図る。
研究主題 「丈夫な体と豊かな心を育てる保育」 ー運動遊びを通してー
- ・研究主題を明確にとらえ、研究目標・目指す幼児像・研究の視点・研究方法と計画全体構想図などを記して実践を重ね、実践結果から反省・考察を検討した。
- ・具体的活動・・・毎週、月曜日「体操の日」と設定。全園児で体操に取り組む。
チャレンジカード（縄跳び、まりつき）、マラソンカードの作成

評 価

- マラソンカードを作成し、目標を持ったことで、体を動かす楽しさ、頑張り、達成感を感じることができ、体力増進や心を鍛えることに繋がった。特に、友達同士の励ましや家族からの応援メッセージは、大きな意欲や喜びに結びついたと思う。保護者の園教育への関心が高まり、幼児の成長が見られた。

課題と今後の取組

- 一人一人の体力、能力に個人差がある。運動に苦手意識のある幼児や支援を必要とする幼児への支援の仕方や環境構成など、家庭との連携を図りながら深めたい。
- ・COT能力を考え、指導内容を検討するなど研修が必要と思う。
(COT：定位・変換・リズム・反応・バランス・連結・識別の7つの能力)

教育重点施策6 「関係機関との連携強化」

平成26年度実施状況

○防災・安全教育

- ・消防署との連携・・痙攣など発作時の緊急搬送、幼年消防クラブ員任命、火災、地震、通報など総合避難訓練、AED研修
- ・警察署との連携・・交通安全教室、不審者対応避難訓練、110番の日防犯教室、パトロールの強化（随時）
- ・学校医との連携・・幼児の急病や怪我の時、優先的に診察。
- ・学校防災研修の参加・・引き渡し訓練（保護者）、通園バス避難訓練（バス会社）

○保育活動（研修関係・各公共機関との連携）

- ・指導主事学校訪問 ・特別支援研修 ・幼児体育研修 ・他の幼稚園研修会参加 他

評 価

- 東日本大震災後、国や県では防災・安全教育に力を入れている。多様な災害に備えての訓練実施は、幼児の安全を守る上では必要不可欠なことであり、実施することによって、防災安全意識の高まりが見られる。避難訓練を重ねるたびに行動も迅速になり、実際に地震が起きたときは、自ら机の下にもぐり避難する姿が見られた。

課題と今後の取組

- 幼児の身の安全を守るため、次年度も今年度同様、多様な災害を想定して訓練を実践したい。

教育重点施策7 「魅力ある教育環境の充実」

平成26年度実施状況

- 築山の修理（工事費499千円）
- 町内企業からのオルガンの寄贈（2台）
- 老朽化した園児用イス（35台）オルガン1台更新（購入費455千円）
- PTAによる奉仕作業（草採り、三輪車乗り場の整備など）

評 価

- ・土が崩れて危険だった築山を修理していただき、安全に遊べるようになった。
- ・オルガンは幼稚園では必要不可欠である。情操教育の一助になっている。
- ・幼児が安全にかけっこや三輪車遊びを楽しむことができた。

課題と今後の取組

- 環境維持のため、草刈作業の強化、樹木剪定。
- 毎月、施設設備の安全点検を実施している。園庭にある遊具の塗装の剥がれが進んでいるので再塗装が必要と思う。

(2) 義務教育（小学校）

教育重点施策 1 「創意と活力に満ち信頼される学校教育の推進」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー事業について保護者へ周知を図るよう毎月の「学校だより」に来校日を知らせ、児童・保護者ともにカウンセリングを受けることができた。 ・特別支援教員補助者を5人配置することができた。募集定員に満たなかったが、職業安定所等に募集の依頼をしていた。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者が安心してカウンセリングを受けることができ、児童・保護者ともに心の悩みを打ち明け、心の安定を図ることができた。 ・特別支援学級1名、1、2年生の各クラスに計4名、合計5名の特別支援教員補助者を配置できた。日々支援の必要な児童への対応に当たることができた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーについては、今後も継続して児童・保護者の心のケアに努めてほしい。 ・ホームページがないのでホームページを作成し、学校の情報発信に努める。 	

教育重点施策 2 「豊かな人間性や社会性の育成」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教育については、各クラスで適応指導の必要な児童をきらぼし教室において個別の学習ができるようにしている。 ・自然体験学習を充実させるためにスクールバス業者と年間校外学習が十分に実施できるよう回数を確保している。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・きらぼし教室では、個別指導の必要な児童に対し、励まし認めながら計画的に指導を行うことができた。 ・各学年で体験学習や見学に契約業者のバスで行くことができた。年間に18カ所、37台を利用し、児童に体験学習や見学で学ばせることができた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・きらぼし教室へ通級する児童が増えている。保護者が通級指導へ通わせることへの抵抗感が減り、理解が深まったことはよいことであるが、児童数が増えすぎて、十分な指導を確保することが課題である。 	

教育重点施策3 「学ぶ力と自立する力の育成」

平成26年度実施状況

- ・基礎基本の定着を図るため、学習中指導の工夫をするとともに、家庭学習の定着を図るよう各学年での宿題や自主学習の取組内容や学年の系統が分かるよう家庭に働きかけた。
- ・全校で朝の活動に「読書タイム」を設けたり、図書室からの貸し出しの多い児童に多読賞を与えたりするなど読書の奨励を図っている。

評 価

- ・基礎基本の指導については、全職員で取り組み、木曜日の「もくもくタイム」等個別指導の時間も設け、一定の成果が得られた。
- ・児童が読書しようとする意欲を高め、時間を確保したことにより、読書に親しもうとする姿が見られる。

課題と今後の取組

- ・基礎基本の定着に重点を置き、活用まで手が回らなかった。下位層の底上げと同時に中・上位層を伸ばす指導にも気を配りたい。
- ・より多くの図書を読んでもらえるよう蔵書を増やしたり、スペースを工夫して活用したりすることが必要である。

教育重点施策4 「健康な体づくりと体力・運動能力の育成」

平成26年度実施状況

- ・食育指導の充実については、「歯と口の健康づくり推進事業」でのかみかみメニューや総合的な学習の時間の中でのサケトバ、モロヘイヤうどん、バター、野菜等を作りながら健康な体をつくる食について学ぶ機会を設けている。
- ・児童が鉄棒運動に親しめるよう、低鉄棒を増設した。また、一輪車の活用を図るために一輪車練習器を設置した。

評 価

- ・口腔内の衛生や食の大切さについて学ぶことができた。その成果を2月に発表して保護者や町内外の教員に実践の成果を知らせることができた。
- ・低鉄棒の増設により、多くの児童が逆上がりや足かけ回り等、休み時間に運動する様子が見られる。また、一輪車の活用も図られ、児童はバランス感覚を養っている。

課題と今後の取組

- ・これまでの実践を継続するとともに、大郷町ならではの食育について計画的に指導していく。
- ・広い校庭で積極的に運動できるよう今後も遊具や教具の整備に努める。

教育重点施策5 「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」

平成26年度実施状況

- ・児童一人一人に合った個別の指導計画を保護者とともに立案して支援している。
- ・今年度も「郷の子バンド」として町の生涯学習フェスティバルや幼稚園のクリスマス会に出演し、演奏を披露している。

評 価

- ・懇談会、家庭訪問等での保護者との計画立案や現在の課題を確認しながら、一人一人の個別支援計画を作成したり、修正して提案したりできた。
- ・「郷の子バンド」は郷の子の児童にとって、とても有意義な発表の場となっている。

課題と今後の取組

- ・多くの保護者の方に認知されてきている特別支援学級である。自閉・情緒学級の児童数が次年度さらに増える。このため、特別支援教員補助者を定数配置したい。

教育重点施策6 「防災教育の推進」

平成26年度実施状況

- ・危険を予測し、回避するための能力を養うために、年に4回の避難訓練を実施している（地震、火災、不審者、引き渡し）。

評 価

- ・実際に火災報知器を作動させたり、防火扉を閉めたりした状況の中で避難行動をとらせた。実際に近い状況での避難となり、児童職員ともに緊迫感を持って訓練できた。

課題と今後の取組

- ・児童がいつでも教師の避難指示をしっかりと聞くことができるよう日常の指導から聞くことを徹底させていきたい。

教育重点施策7 「教員研修の充実」

平成26年度実施状況

- ・公開研究会や各種希望研修への参加を促し、その事後報告を全職員で行っている。
- ・秋田県東成瀬村へ「日帰り」「宿泊」の2回研修視察を行った。

評 価

- ・各種研修会や公開研究会で学んだことの伝講会を開催して、参加しなかった職員にも他校の実践のよさを学ぶ機会となっている。
- ・参加した職員がレポートをまとめ、資料として保存したり、伝講したりしながらその成果を広めている。

課題と今後の取組

- ・次年度も秋田県の学力向上で成果のある地域や学校への研修視察団の派遣を計画し、大郷町への普及を図りたい。

教育重点施策8 「幼・小・中一貫教育の充実」

平成26年度実施状況

- ・指導主事訪問時に幼稚園、中学校へ授業参観に職員を参加させた。
- ・小中連携英語教育推進事業での小・中学校が互いに授業参観を行った。

評 価

- ・教員が互いに他校種の学習を参観することができ、それぞれの特徴を知ることができた。
- ・中学校、小学校のそれぞれの教員が外国語活動と英語の学習の違いを理解することができた。

課題と今後の取組

- ・小学校教員は、ほとんど空き時間がない。そのため他校種の参観を行うことのできる小学校教員が限られている。参加体制を整えないと中学校の授業を参観することができない。

教育重点施策9 「信頼され、魅力ある教育環境の整備」

平成26年度実施状況

- ・魅力ある教育活動を推進するためにボランティアの確保・活用を図ることができた。(学童農園の整備・借りている水田の稲作)
- ・教材備品の整備充実を図った。特に電子黒板機能のついたプロジェクターを各学年に1台、合計6台導入した。併せてスクリーンも移動式のを整備した。(教材備品費 193 万円)
- ・平成26年度においても図書室の一般図書や課題図書(夏季休業などを利用して読ことを推奨した図書)の整備充実を努めた。(図書費 24 万円)
- ・鉄棒増設工事 270 千円、プール補修工事 605 千円
グラウンド整備工事 378 千円、防犯カメラ移設工事 99 千円などを実施し、教育環境の整備充実を図った。



評 価

- ・多くのボランティアが環境の整備、児童への学習支援を行ってくれた。新たに図書ボランティアの方に返却本の整理をしていただいている。
- ・プロジェクターとスクリーンの導入によって効果的に活用することができた。

課題と今後の取組

- ・埋もれている地域資源や教材の掘り起こしと活用を図っていく。
- ・雨が降ると水はけの悪い校庭の暗渠排水工事等早期に実現できるようにしたい。

(3) 義務教育（中学校）

教育重点施策1 「創意と活力に満ち信頼される学校教育の推進」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や合唱コンクールは保護者、地域の方々へ案内を出し、町内1校として、地域の行事としての側面も持たせた。 ・生涯学習フェスティバル、おおさと夏祭りへの生徒の参加を支援した。 ・町保健福祉課と連携して人権啓発講演会を企画し、親子で人権について考える機会とした。 	
	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・公開している行事には、多くの保護者、地域の方々に参加してもらい教育活動の成果を見てもらった。 ・地域での活動において、声掛けしてもらうことで生徒の励みとなっている。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会自治活動において、ボランティア活動や地域の方々との触れ合い、一緒に活動する機会をつくり実践する。 ・地域の方々をゲストティーチャーとして招き、生徒が学習する機会をつくる。 	

教育重点施策2 「豊かな人間性や社会性の育成」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携英語教育推進事業に係る研修会、実践授業研究会を実施した。 ・志教育の「人とかかわる」「よりよい生き方をもとめる」「社会での役割をはたす」の3つの視点を生徒会活動の「自治活動」に関連づけた教育活動を実践した。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・小中相互に外国語活動・英語の授業参観を行い、ALTの効果的な活用をはじめ、小学校から中学校への円滑な接続に資する。 ・応援団活動や縦割り活動等、異年齢間のよりよい理解につながるとともに、自己肯定感の醸成に資する。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のコミュニケーション能力の向上のための授業づくりを目指し、小中合同で研修を深める。 ・保護者や地域の方と連携した活動をとおして、志教育の3視点到る。 	

教育重点施策3 「学ぶ力と自立する力の育成」

平成26年度実施状況

- ・学習評価の研修を深め、個々の学習状況をきめ細かに見取り、すべての生徒を十分満足できる状態に高めるための手立てを工夫し、授業を実践した。
- ・定期テスト前に「家庭学習推進期間」を設定し、家庭学習の定着を図った。また、家庭訪問や三者面談を活用し、個別の学習の目標を具体的に共有した。
- ・「授業の指針」を掲げ、本時のめあてを明確にし、また振り返り活動を全教科で行った。

評 価

- ・評価方向と見取りについて研修を深め、指導と評価の一体化が意識されるようになった。
- ・授業における基礎・基本が焦点化され、生徒が「わかった」と実感する機会が増え、意欲が向上してきた。

課題と今後の取組

- ・身に付いた知識をさらに広げようとしたり、探究心に結びつくまでにはなっていない。
- ・授業で定着が不十分だった生徒に対する放課後などの指導時間の確保が難しい。また、普段の家庭学習の習慣がなかなか定着しない。

教育重点施策4 「健康な体づくりと体力・運動能力の育成」

平成26年度実施状況

- ・スポーツテストの結果に基づき、保健体育の授業、部活動の時間を中心に意図的に体力の向上を図った。
- ・給食委員会を中心に、「黙々配膳」「残食0」などを給食の目標として、食に対する意識を高めた。
- ・保健委員会の活動において、日常の健康管理や感染症予防についてミニ研修を行い、それに基づき広報啓発を行った。

評 価

- ・保健体育の授業に意欲的に取り組み、また、運動部活動や陸上大会、駅伝大会の練習に進んで参加する生徒が増え、体力向上への意識が高まってきた。
- ・落ち着いた状態で準備をし、食べ物を大切に食事をする事ができた。

課題と今後の取組

- ・運動部以外の生徒について、運動量確保のための手立てが必要である。
- ・今後、栄養士と連携し、食材や調理に関する内容についても指導する。
- ・保護者の理解と協力を得て、家庭生活における健康、食育に目を向けさせ、一層の意識向上を図る。

教育重点施策5 「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」

平成26年度実施状況

- ・特別支援コーディネーターを中心に、生徒個々の特性を理解し、適切に関わる教職員の体制を組み支援した。
- ・技能教科、総合的な学習の時間は、協力学級で学習を行った。行事については、可能な限り協力学級の一員として参加できるよう配慮した。

評 価

- ・協力学級での学習、活動をとおして人とかかわる力が育ち、進路の実現につながった。
- ・特別支援教育補助「教員補助者」の配置により、個別の関わり、支援に資する。

課題と今後の取組

- ・保護者との連絡、協力をより密にし、個々の支援計画に応じた実践を重ね進路実現につなげる。

教育重点施策6 「防災教育の充実」

平成26年度実施状況

- ・防災教育計画、学校防災マニュアルに基づく実践として、以下の取組を行った。
 - ①月毎の安全点検及び、年2回の避難訓練
 - ②各教科及び、道徳、特別活動をとおした防災教育に資する学習活動
 - ③町担当部局との情報交換を生かした学校防災マニュアルの点検

評 価

- ・防災教育計画及び学校防災マニュアルに基づく各取組は、教育活動として定着し適切に行っている。
- ・生徒個々の関心・意欲や危険回避行動の習得度合いの把握が不十分である。

課題と今後の取組

- ・生徒の自主的・自治的活動をとおして、防災意識を高める取組を考え、実践する。
- ・保護者や地域の方々と連携した防災訓練のあり方を検討し、実施する。

教育重点施策7 「教員研修の充実」

平成26年度実施状況

- ・秋田県東成瀬村教育研修視察をはじめ、各種研修会への全職員参加を推進するとともに、成果を共有するための伝講会を実施した。
- ・教員を2グループに分け、グループごとに指導案検討会を行い、校内における授業研究を実践した。

評 価

- ・秋田県の学力向上のための施策や学校現場で実践について研修し、成果を共有することができた。
- ・グループごとに研究授業の準備を行い、授業意図の理解が深められ、検討会を活性化することができた。

課題と今後の取組

- ・教職員の経験年数、ライフステージに応じた研修に資質能力の向上を求め、積極的に参加できるよう配慮する。
- ・校内研究3年次の成果と課題を検証し、授業力向上に資するとともに次なる主題を設定する。

教育重点施策8 「幼・小・中一貫教育の充実」

平成26年度実施状況

- ・新入生を迎えるにあたり、新入生保護者説明会、小学校との引継の場を設置した。
- ・町内幼稚園・小学校の指導主事訪問や校内研修の参観を推進した。
- ・小中連携英語教育の実践として、小中相互に外国語活動・英語の授業参観を行った。

評 価

- ・情報を共有することによって、円滑な接続が図られた。
- ・他校種の指導のあり方について理解が深まった。

課題と今後の取組

- ・引継時だけでなく、個々の特性を理解し適切に関わることができるよう、定期的な情報交換ができるとより効果的である。

教育重点施策 9 「信頼され、魅力ある教育環境の整備」

平成26年度実施状況

- ・ 毎月の安全点検において、危険箇所等を把握するとともに補修、整備に努めた。
- ・ 防災マニュアルに基づき、消防と連携した避難訓練を実施した。
- ・ 毎日、教職員が登下校指導を行い、生徒の安全確保と健全育成に努めた。
- ・ 楽器（サクソフォン・ビオラフォン）や視聴覚用テレビ、実物投影機などの教材備品の整備充実を図った。（教材備品費 1,613 千円）
- ・ 校庭については、平成20年の学校統合時に暗渠排水工事を実施したが、施工後6年が経過し野球の内野付近の水はけが悪くなったため、その周辺を中心に再度暗渠排水工事を実施した。（工事費 3,575 千円）
- ・ 経年劣化により、パソコン室カーペットの痛みが著しいことから、全面張替工事を実施した。（工事費 634 千円）
- ・ 校舎に設置しているFF式暖房機のうち、不具合の生じた10台を更新した。（設置費 1,080 千円）



評 価

- ・ 学校における日常点検で修繕箇所等が発生した場合に、生徒の安全を考慮し、早急な対応を行った。
- ・ 生徒が快適な学校生活を送るために必要な施設整備を行い、安心・安全な学校環境づくりを行った。

課題と今後の取組

- ・ 登下校時の保護者の車が混雑し危険を感じる現状から、生徒、保護者への事故防止を徹底する。
- ・ 防災マニュアルに基づいた引き渡し訓練を実施し、その検証を行う。
- ・ 校舎は、建築後30年近く経過しているため、老朽化が進んでいる。適時適切なメンテナンスが必要な状況にある。

(4) 学校給食

重点施策1 「安全でおいしい給食の提供」

平成26年度実施状況

- ・学校給食用食材の放射能測定検査を実施し、町のホームページで情報を公開した。
- ・地場産物や旬の食材を活用した、献立の工夫を行った。
- ・子どもたちの要望を取り入れたリクエスト給食を実施した。



- ・メニュー
豚肉の生姜焼き
きんぴらごぼう
野菜スープ
ご飯
牛乳
- ・地場産品
白菜

小学校6年2組のリクエストメニュー(1月27日)

評 価

- ・放射能測定検査結果を公表することで、食材の安全性について情報を共有することができた。
- ・子どもたちの要望を取り入れることで、給食への興味関心を高め魅力ある給食を提供することができた。
- ・新鮮な地場農産物を活用することができた。

課題と今後の取組

- ・給食センター施設の維持管理に努め、安全な給食を提供する。
- ・地場農産物の活用を更に高め、調理の工夫やニーズに合ったおいしい給食の提供に努める。

重点施策2 「食育の推進と関係機関との連携」

平成26年度実施状況

- ・ 栄養士が幼稚園、小学校、中学校を訪問し、給食時の子どもたちの様子を把握し、給食に対する理解を得るための活動を行った。
- ・ 給食主任者会議や給食運営委員会、地場農産物利用推進委員会を開催した。



栄養士による大郷幼稚園での食材についての指導の様子

評価

- ・ 栄養士が訪問することで、給食時の様子を把握したり栄養指導したりすることができた。
- ・ 各種会議をすることで、給食運営に対する貴重な意見や情報を共有することができた。

課題と今後の取組

- ・ 学校給食の充実を図るため、今後も関係機関と連携して情報を共有化する。

重点施策3 「学校給食施設・設備の整備・充実」

平成26年度実施状況

- ・ 夏場は調理場の室内温度が30度を超える日もあることから、食品衛生と労働環境の2つを考慮し、スポットクーラー2台を新設した。(設置費3,564千円)
- ・ 調理員専用手洗い場の設備を整え、衛生面の向上を図った。(改修費702千円)
- ・ 調理設備等に故障や破損などが発生したときには、速やかに適切な修繕を行った。(修繕料計2,603千円)

評価

- ・ 衛生面がより向上するとともに、調理員の労働環境の改善にもつながった。

課題と今後の取組

- ・ 学校給食センターは、建設後17年が経過しており、施設・設備の老朽化が懸念される。衛生管理を充実させるためにも今後計画的な整備を図っていく。

2 社会教育

(1) 社会教育の充実

教育重点施策1 「社会教育の活性化」

平成26年度実施状況

- ・ 町民の学習成果の発表の場として、第19回生涯学習フェスティバルを10月25日（土）に開催した。フェスティバルには、幼稚園・保育園・小学校・中学校の児童生徒のほか、文化協会加盟団体など22団体が出演した。作品展示の部では、公民館各種講座などで制作した作品の展示が行われた。
- ・ 協働教育プラットフォーム事業は、コーディネーターや支援ボランティアの協力のもと、次の事業を実施した。

事業名	内容	人数
家庭教育支援	子育て支援チーム「ぽっかぽか」講座 家庭教育学級「みんなともだち」	参加者約170名
学校教育支援	学習支援、読み聞かせ、環境整備、登下校安全指導、図書整理、食育学習支援、常駐コーディネーター、等	ボランティア 延べ1,063名
地域教育支援	世代間交流事業、ジュニア・リーダー活動支援、体験学習活動	参加者346名

子育て支援チーム
「ぽっかぽか」事業



学習支援
「家庭科学習支援」

評価

- ・ 平成26年度の生涯学習フェスティバルでは、幼・小・中の児童生徒が参加し、多くの町民に対し日頃の学習の成果を発表することができた。
- ・ 協働教育プラットフォーム事業の実施により、家庭・地域・学校をつなぐ仕組みがつくられ、協働による教育活動を通じて、家庭・地域の教育力の向上が図られた。

課題と今後の取組

- ・ 町民が生涯を通じて、いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習のまち」を築くため、町民の生涯学習ニーズ把握に努め、魅力ある社会教育事業を展開するとともに、地域の人材の発掘、育成を図る必要がある。

教育重点施策2 「芸術・文化活動の推奨」

平成26年度実施状況

- 小学生を対象とした「音楽アウトリーチ事業」並びに中学生を対象とした「青少年劇場」を実施した。

事業名	内容	参加者数
音楽アウトリーチ事業	韓国伝統打楽器ワークショップ	小学生411名
青少年劇場	リコーダーとともに	中学生226名

- 町文化協会や町民演劇「おおさと夢劇団」に補助金を交付し、町民の豊かな文化活動を支援した。(文化協会 180 千円、町民劇場 450 千円)
- 第13回目となる町民劇場は、12月7日(日)、「明るい農村パートV 君の名は・・・ 僕の名は・・・」と題して公演した。



音楽アウトリーチ事業で、外国の民族音楽を身近に体験した



13回目を迎えた、町民劇場公演

評 価

- 「音楽アウトリーチ事業」や「青少年劇場」などの事業を通して、児童生徒に優れた芸術文化を身近に観賞できる機会を提供することができた。
- 今年度で第13回目の公演を迎えた町民劇場は、来場者の約半数が町外の来場者であり、町民手づくりの演劇として、町外にも認識されてきている。
- 町文化協会加盟団体は、現在29団体を数え、ほぼ横ばい傾向ではあるが、町民の芸術文化活動に積極的に取り組んでいる。

課題と今後の取組

- 町民劇場が継続して公演活動ができるよう、支援・協力を行っていくとともに、人材の育成、団体の自主的な運営の活性化を図っていく必要がある。

教育重点施策3 「家庭及び地域の教育力向上と活性化」

平成26年度実施状況

- ・協働教育プラットフォーム事業の一環として、子育て支援チーム「ぽっかぽか」では、支援チームが主体となって講座の内容について検討し、「親子防災講座」等の講座を年3回実施して、31名の参加を得た。また、家庭教育学級「みんなともだち」では「親子で楽しくヒップホップ」等の親子で参加出来る3回の学習会を実施し、延べ140名の参加を得ている。
- ・食育実践事業として、幼稚園ではさつま芋植えやりんご狩りなどを行い、小学校では大豆の収穫や加工、サケの観察や調理などを実施した。
- ・放課後子ども教室（郷子舎）事業は、大郷小学校の全児童を対象に実施している。平成26年度は80名の児童が登録し、年53回開催、延べ2、297名の児童が受講した。
- ・宮城教育大学との児童生徒の学力向上や教員の研修などに関する連携協定により、平成26年度も「サマースクール・ウィンタースクール」を開講し、計7日間で延べ534名の児童生徒が受講した。宮城教育大学の学生ボランティアにも延べ39名の協力を得た。



宮城教育大学の協力を得て学力向上を図ります（ウィンタースクール）



宿題が終わった後は、遊戯室でスタッフや地域の方と遊んで過ごしています（郷子舎）

評

価

- ・協働教育プラットフォーム事業において家庭教育事業を実施することができた。食育実践事業では、農業を通して作物の成長の様子に関心を持たせることができた。また、自然の恵みに感謝し、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・放課後子ども教室事業では、地域の方々の協力のもと、放課後、子どもたちが安心して学習やさまざまな体験ができる活動場所を提供することができた。
- ・宮城教育大学との教育連携事業により、児童生徒の学力向上に努めた。

課題と今後の取組

- ・協働教育プラットフォーム事業や放課後子ども教室事業は、今後も国・県の補助事業が継続されるか未定であるが、町教育委員会事業として継続していき、家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりの推進を目指していく。

教育重点施策4 「青少年教育の充実」

平成26年度実施状況

- ・ジュニア・リーダー研修会に中・高生9名（初級2名、中級5名、上級2名）を派遣した。
- ・10月12日（日）、町子ども会育成会主催の第16回チャレンジランキング大会がフラップ大郷21で開催され、未就学児を含む町内の281名の子どもたちが参加した。町子ども会育成会に対し、運営費補助として10万円を交付した。
- ・青年の自主的な地域活動を支援するため、活動拠点のなかった黒川郡連合青年団に平成24年度から粕川社会教育センターの一角を無償貸与している。また、町青年団に対し、補助として5万円を交付した。
- ・大郷町と災害協定を締結している北海道清水町との交流事業を平成26年度は、大郷町を会場に実施した。清水町児童12名、大郷町児童26名が参加し、交流キャンプ、カヌー体験等の体験学習を実施した。



清水町との交流事業でカヌーに挑戦（B&G海洋センター）



初級研修会、交歓会を黒川郡合同で実施しています

評

価

- ・ジュニア・リーダー研修や北海道清水町との交流事業を通し、地域子ども会の中核となるリーダーの養成を図った。
- ・青年団は、地域活動の一環として、今年度も「くろかわチャリティーコンサート」を開催し、その収益金を児童生徒の教育振興のために郡内4町村教育委員会に寄付した。

課題と今後の取組

- ・ジュニア・リーダーの育成支援を引き続き実施していくと同時に、広域（仙台管内・県）各種研修会への参加促進を図っていく。
- ・交流事業等の体験学習を引き続き実施し、子どもたちへの学習機会の提供、リーダーの育成を図っていく。
- ・全国の青年団員数は時代とともに減少しており、青年層の青年団離れと地域離れが同時に起こっている。青年が地域の担い手となり、地域づくりの原動力となるように、青年団組織の育成強化を図っていく必要がある。

(2) 公民館活動の充実

教育重点施策1 「学習意欲が高まる魅力的な環境の整備」

平成26年度実施状況

*平成26年度中央公民館の利用状況

利用区分	回数	利用人数	備考
公民館主催事業	53	1,033名	
社会教育団体	231	2,575名	
行政機関	88	3,355名	
行政育成団体	24	788名	
スポーツ育成団体(体協・スポ少)	3	37名	
一般団体	65	1,322名	
合計	464	9,110名	

評価

- ・公民館は、住みよい地域をつくるための情報交換の場として、個人やグループが自由にくつろいでいただける地域の”茶の間”であり、知識や教養を身につけ仲間づくりをするふれあいの“館”であることから、安全で安心かつ快適に利用しやすく親しまれるよう維持管理に努めた。

課題と今後の取組

- ・経年劣化が進むにつれ、維持管理等が大変な現状にあり、施設の更新も視野に入れ、安全かつ安心して各世代のライフステージに即した多様な学習機会を提供する施設として、有効利用できるよう整備及び維持管理に努める必要がある。



大郷町中央公民館

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の推進」

① 少年教育の推進

平成26年度実施状況

* 「YOU・遊・通信」発行

実施時期	内 容	配布対象
4月16日 7月10日	○新刊図書の紹介 ○おすすめ図書の紹介 ○読書活動の啓蒙 ○図書室の利用の仕方 ○公民館事業等の紹介	町内小学生及び 幼稚・保育園児等

評 価

- ・読書活動の啓蒙と児童が参加可能な公民館事業に関する情報提供に努めた。

課題と今後の取組

- ・継続的に発行して、図書室利用や公民館事業への関心を高めるための情報提供をしていく必要がある。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の推進」

② 青年教育の推進

平成26年度実施状況

* 成人式の実施

実施時期	内 容	対 象 者
平成27年 1月11日（日）	○式典と記念撮影及びアトラクション （内容は運営委員会を組織し実施） ※運営委員会開催回数 5回実施	H6.4.2～H7.4.1 出生者 86名

評 価

- ・新成人の門出を祝福し、時代を担う心構えと先進的な知識、前向きな意欲、たくましい活力を発揮し、新しい時代を築く原動力となっただけのために、新成人者による運営委員会を組織して、成人者による成人式を実施した。

課題と今後の取組

- ・新成人者で組織する運営委員会の充実を図り、時代を担う心構えを確かなものにする成人式の実施が必要である。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の推進」

③公民館定期講座の開設推進

平成26年度実施状況

* 高齢者教育の推進（ハツラツ倶楽部）

高齢者の皆さんが、健康で明るく豊かな人生を過ごすための生きがいを見つけるきっかけづくりとなるための学習会を下記内容で実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月22日（木）	第1回 講話『生きる幸せ 老いる幸せ』	31名
6月26日（木）	第2回 講話と実技『ゆらっくす体操』	23名
7月18日（金）	第3回 講話『家庭における地震、防災、減災』 ※マ～どんな合同学習	26/42名
9月11日（金）	第4回 創作『ミニポシエットデコレーション』	23名
10月9日（木）	第5回 講話『笑って、笑って・ちょっとだけ 頭の体操 PPK+7』 ～楽しくなければ人生じゃない～	27名
11月13日（木）	第6回 講話『輝くわが人生の“しまい支度” あれこれ』	29名



第1回学習会「生きる幸せ 老いる幸せ」



第2回学習会「ゆらっくす体操」

* 婦人教育の推進（マ～どんな倶楽部）

現代女性としての知識と教養を高め、女性相互の交流と明るい家庭づくりを図るための学習会を下記内容で実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月20日（金）	第1回 講話『老化の元凶はAGE！「摂らない」 「作らない」生き方でアンチエイジング』	26名
7月18日（金）	第2回 講話『家庭における地震、防災、減災』 ※ハツラツ合同学習	16/42名
9月4日（金）	第3回 創作『手作りコサージュで胸元を華やかに』	15名

10月 3日 (金)	第4回 移動学習 (婦人会館活用講座) 実 技『唄って踊って生き生き長生き』 工場見学『白松がモナカ本舗赤坂工場』	12名
11月14日 (金)	第5回 講話『始めよう！エコでスマートな生活』	17名
12月12日 (金)	第6回 講話『地域づくりに皆さんの力を』	19名



第3回学習会
「創作学習・コサージづくり」



第6回学習会
「地域づくりは皆さんの力で」

評 価

- ・多様化する町民の学習ニーズに応え、公民館定期講座として2講座（ハツラツ倶楽部・マ～どんな倶楽部）を開設し、生涯を通じる教養等幅広い学習内容での年次計画を立て、地域でいろいろな機会に情報提供できるような方向で学習に臨むよう声掛けをするなど地域活動の参考となるような学習を実施した。
- ・2講座の受講者においては、固定化や高齢化傾向が見られることや男女を対象としたハツラツ倶楽部の受講者が女性だけで、男性受講者がほとんどない状況であった。

課題と今後の取組

- ・公民館の定期講座は、継続的に計画実施してきた事業であり、今後も幅広い学習内容を検討し、高齢者の生きがいづくり支援、知識・技術及び経験を積極的に社会に役立てる方策のための学習、あるいは、男女共同参画社会の実現に資すべく、その意識高揚の役割も併せ持つような学習内容、女性のニーズに対応した学習内容等を検討することが必要である。
また、男性を対象とした講座を開設して、地域活動の活性化に資する必要がある。
- ・受講者の固定化や高齢化傾向等を解消するためのコースの設定等を検討する必要がある。

教育重点施策2「ライフステージを踏まえた事業の発展と継続的活動の推進」

④趣味・教養講座等の開設推進

平成26年度実施状況

*正しい歩き方教室

骨格の歪みや体調不良の原因ともなる日常の姿勢や歩き方のクセを知る機会を提供し、正しい姿勢・歩き方を習得することで、より健康多岐な生活習慣の確立を意識付けることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月20日(金)	実技『正しい歩き方と姿勢』	23名



“姿勢良く正しい歩き方を”

*がんばらない運動教室

身体の歪みや体調不良の原因を知り、改善に役立つ運動方法を習得する機会を提供し、運動への苦手意識をなくし、生活に取り入れやすい身近な運動方法を習得するねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月2日(月)	○第1回～第5回 身体の歪みや体調不良を改善する体操 実技『がんばらない体操』	10名
6月16日(月)		5名
6月30日(月)		3名
7月14日(月)		8名
7月28日(月)		5名

※延べ参加人数 31名



* 思い出写真のデコクラフト教室

撮りためた暮らしの記録写真をきれいにレイアウトする技法『スクラップブックキング』を学び、趣味の幅を広げ、たのしい育児・たのしい家事の時間をつくることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
5月28日(水)	第1回 講話と実技 講話『スクラップブックとは』 実技『お気に入りの写真でカードをつくろう』	5名
11月19日(水) ≪12月17日≫	第2回 実技『思い出いっぱいの写真を アルバムシートにレイアウト』 ※受講者希望により補習講座実施(第3回)	2名 (3名)

※子育て支援センターの協力で託児実施

延べ参加人数10名



受講者が安心して受講(託児のようす)

* 抱っこでステップ!!ベビーダンス教室

赤ちゃんを持つ親が育児の楽しさを見直すとともに心身のリフレッシュを図ることができるよう、新しいスキンシップ&エクササイズの技法を体験するねらいで実施した。

実施時期	内 容	参加者数
7月25日(水)	○講話と実技 『抱っこでステップ!!ベビーダンス』 ※会場：乳幼児総合教育施設すくすくゆめの郷遊戯室	3組/9名 ※特別参加：子育て支援センター職員3名

※赤ちゃんとお母さんの参加は3組



* 心を結ぶお包み教室

日本人の暮らしと深く結びついている『お包み』のさまざまな形や技法を習得しながら、日本人の心遣いや暮らしの文化を学ぶことをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
6月25日(水)	第1回 講話と実技 『お包みとは』～魅惑のふろしき	17名
8月27日(水)	第2回 講話と実技 『折形(おりがた)とは』～紙折り包み	12名
10月29日(金)	第3回 実技『おうちでできるラッピング』	13名

※延べ参加者数 42名



“ラッピングの仕方を真剣に学ぶようす”

* 老い支度とエンディングノート教室

高齢者のひとり暮らし・ふたり暮らしが増えている中で高まる「老後の不安」を解消するため、何を整理し・準備し・何を伝えておくべきかなどの「老い支度」について学習した。

実施時期	内 容	参加者数
10月11日(土)	○講話『老い支度とエンディングノート』	19名



“エンディングノートの作成の仕方を”

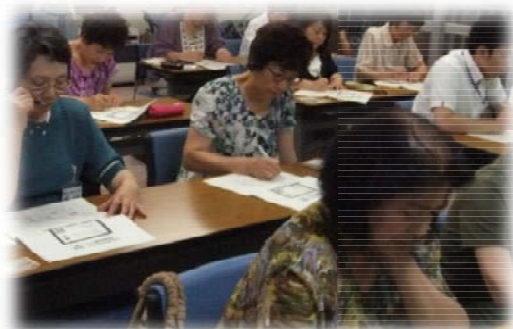
* 心を伝えるマナー教室

暮らしの中で欠かすことのできない『おつきあいのマナー』を習得することをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
7月16日(水)	第1回 講話『冠婚葬祭のマナー』	15名
8月6日(水)	第2回 講話『訪問・おもてなしのマナー』	11名

《夜間開催》

※延べ参加者数 26名



“冠婚葬祭マナー”を学習する受講生

* おもしろ工作体験教室

子どもから高齢者まで、家族・地域の方々と世代を超えて一緒に物を作る時間を持つことにより、ふれあいと共通の話題、完成の喜びを共感し分かち合うことをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
7月23日(水)	えっぐおじさんの『たまごの学校』 ＝捨てられるものが生まれ変わる＝	45名
8月11日(月)	墨あそび教室 墨あそび～墨っておもしろい～	17名



『たまごの学校』“たまごが小物に変身”



『墨あそび』“墨っておもしろい”

*** お米のかんたん料理教室**

『米』を使ったさまざまな料理を楽しむことで、町の中心的農産物『米』の良さを見直す機会と親子で受講する機会を通じて、地域住民の異世代間交流を図ることをねらいとして実施した。

実施時期	内 容	参加者数
11月 1日 (土)	『ライスケーキと野菜スープ』	22名
2月 28日 (土)	『パイ包み米粉シチュー&米粉パン』	22名



※延べ参加人数 44名

*** みやぎ県民大学「生涯学習活用出前講座」《大郷会場》**

「地域の歴史を学ぶ」～支倉常長と慶長遣欧使節団の夢 (ロマン) をたどって～

実施時期	内 容	参加者数
9月 3日 (水)	第1回 「伊達政宗と徳川家康にスペイン外交」	41名
9月 24日 (水)	第2回 「慶長遣欧使節団の足跡を追う旅」	36名
10月 15日 (水)	第3回 「前編・近代大郷町の社会と経済」	26名
11月 5日 (水)	第4回 「後編・近代大郷町の社会と経済」	29名

※延べ参加人数 132名



評 価
<ul style="list-style-type: none"> ・趣味・教養・健康等幅広い多種多様な教室を開設し、仲間づくりからサークル活動を通して成長できるように支援し、受講者個々の資質の向上を目指した。 また、子どもから高齢者まで、家族・地域の方々と世代を超えて一緒に物を作る時間を持つことにより、ふれあいと共通の話題、完成の喜びを共感し分かち合える機会を提供する教室の実施、生涯学習活用出前講座「みやぎ県民大学」を本町会場に開催したところ、町内外から高評を得た。
課 題 と 今 後 の 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も各種多様な講座を開設し、老後の生活などライフステージに即した学習内容の提供に努めるとともに、サークル活動として自主的活動ができるように努める必要がある。 ・共通な話題の中で異世代交流ができる講座や男性を対象とした講座・教室の開設をするとともに、サークルが自主活動するための情報等の提供が必要である。 ・歴史に興味をもつ住民のニーズにこたえるよう次年度以降も歴史関係講座・教室を開設する必要がある。

教育重点施策3 「各種団体の活動支援」	
平成26年度実施状況	
実施時期	内 容
随 時	<ul style="list-style-type: none"> ○町文化協会加入団体及び公民館を拠点として活動している団体・サークルへの助言援助 ○町婦人会連絡協議会活動の助言援助 ○地域コミュニティ（大松沢・ふれあいセンター推進協議会）組織の支援・援助
評 価	
<ul style="list-style-type: none"> ・町文化協会加入団体、公民館を拠点に活動しているサークル・グループなど、代表者を中心に会員相互の連携をもとに運営している団体に対して、活動助言や施設利用の援助を行った。 ・婦人団体活動への指導助言、地域コミュニティ（大松沢地区コミュニティ推進協議会・ふれあいセンター推進協議会）組織の自主的、積極的活動に対し支援を行った。 	
課 題 と 今 後 の 取 組	
<ul style="list-style-type: none"> ・各団体が自主的な活動運営ができるよう指導助言に努めるとともに、地域づくりを円滑にするための条件整備を図りながら継続して支援していく必要がある。 	

教育重点施策4 「指導者の充実」

平成26年度実施状況

今年度は指導者の養成講座は実施しなかった。

評 価

- ・指導者等の養成講座は実施しなかったが、地域活動のリーダーとしての分館長や読み聞かせボランティアサークルが活動するために必要な情報・資料等の提供を実施した。

課題と今後の取組

- ・町民のニーズに応じたいろいろな事業を展開する上で、各地域や各種団体のリーダー・ボランティアの養成やスキルを発揮する機会や研修会等を開催する必要がある。

教育重点施策5・6

「地域に密着した活動推進と地域に根ざした分館活動の活性化支援」

① 分館長会議及び活動支援

平成26年度実施状況

実施時期	内 容	備 考
4月25日(金)	○分館長会議及び分館長会総会	
6月25日(水)	○分館長(役員)会議	
8月2日(土)	○おおさと夏まつり協力	出店及び地区活動への支援
10月10日(金)	○分館長(役員)会議	
11月20日(木)	○分館長会議及び分館長研修会	
1月17日(土)	○黒川郡分館長及び公民館協力員大会	大郷町会場 参加者(大郷16名)
その他活動	○各分館への活動運営費助成交付 ○各分館活動への助言	

評 価

- ・公民館事業の連絡調整並びに町民へのPR活動や分館活動の活性化を図るために、分館長会議、分館長研修会の開催、黒川郡内分館長並びに分館協力員大会等へ参加するなど、公民館(分館)推進体制の充実強化に努めた。

課題と今後の取組

- ・各分館長としての役割はさまざまであるが、町民との連絡調整を図り、地域に根ざした公民館(分館)運営活動を行うとともに地域コミュニティづくりの一助となるよう各種研修会等への積極的参加を呼びかける必要がある。

教育重点施策 5・6

「地域に密着した活動推進と地域に根ざした分館活動の活性化支援」

②分館施設の整備充実

平成26年度実施状況

* 公民館分館の整備充実

- ・ 上町分館・・・(合併浄化槽加入に伴うトイレ改修工事)
- ・ 味明分館・・・(建具調整及び玄関ポーチ柱受の修繕)
- ・ 石原分館・・・(玄関サッシ及びトイレの修繕)
- ・ 吉ヶ沢・山崎分館・・・(駐車場敷地への敷砂利提供)

評 価

・ 各分館は、あらゆる活動の拠点施設であることから、各行政区長や分館長と協議をして施設の環境整備等の充実に努めた。

課題と今後の取組

- ・ 各分館施設は、各行政区のあらゆる活動の拠点であり、災害時における第1避難所としての役割を持った施設でもあることから、逐次、環境整備の充実に努めていく必要がある。

教育重点施策 7 「読書活動の充実」

① 公民館図書室の図書利用促進

平成26年度実施状況

* 公民館図書室の開放

月～金曜日（祝日を除く）は午前8時30分から午後5時まで
毎月第2・第4土曜日は午前8時30分から午後3時まで
(図書利用状況)

利用者数延べ1、878名・利用冊数延べ4、450冊)

評 価

- ・ 町民への貸出し本を各分野・分類ごとに整理するとともに、町民の読書意欲が高まるような情報の提供・本のリクエスト対応や県図書館との連携を図った。

課題と今後の取組

- ・ 図書管理の利便性を向上させるために、次のことを検討する必要がある。
 - 図書管理システムの導入及び図書を利用しやすい環境整備
 - 図書選定基準等の作成
 - 図書業務専任職員（司書）の配置

教育重点施策7 「読書活動の充実」

② おはなし会の実施

平成26年度実施状況

* たのしいおはなし会

実施時期	内 容	参加者数
8月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ(絵本・紙芝居) ・手話ソング・ハンドベル演奏 ※読み聞かせサークル「どんぐりの会」 	34名



“読み聞かせサークル「どんぐりの会」によるおはなし会

評 価

- ・読書意欲が高まるよう、読み聞かせサークル「どんぐりの会」の協力をいただき「おはなし会」を実施した。

課題と今後の取組

- ・読書サークル活動への支援、県図書館等との連携をして、公民館図書室の充実を図り、本の展示や本の選定方法を学ぶ講座等を開催して、町民が読書に感心を以っていただけるような企画運営をしていく必要がある。

(3) 社会教育施設

教育重点施策 1 「施設の整備・充実」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・町文化会館のホールが安全かつベストの状態で使用できるように、電動椅子・音響設備・舞台吊物・空調設備の保守点検を行った。・小学校統合（平成24年度）により、旧大松沢小学校校舎を社会教育センターとして活用していたが、老朽化が見られることから、建設年度の古い西側部分の解体工事を実施するとともに、新築する大松沢社会教育センターの設計業務を行った。解体工事は翌年度へ繰越。	
評	価
<ul style="list-style-type: none">・大松沢社会教育センターの平成27年度早期完成・オープンを図り、地域住民から愛され親しまれる地域コミュニティの拠点施設としていきたい。	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none">・町文化会館は、建築後29年が経過しており、外壁等の汚れなどが目につくことから、今後、塗装などの改修工事を実施する必要がある。また、音響・照明設備、冷暖房設備の老朽化が目立ち、早急に改修する必要がある。	

教育重点施策 2 「各施設利用手続きの一元化の促進」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・町文化会館で勤務していた社会教育係と生涯学習係の職員を平成24年度から町海洋センターに移動し、社会教育・社会体育の全施設の利用申請を海洋センターで受け付けるようにした。	
評	価
<ul style="list-style-type: none">・社会教育・社会体育施設の利用手続きの一元化が図られた。	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none">・平成24年度から町文化会館の事務室が不在となったことから、文化会館利用者へのサービス低下が懸念される。	

(4) 社会教育指導者との連携

教育重点施策 1 「社会教育指導者との連携」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度において新たに1名の町職員が「社会教育主事」としての任用資格を得ており、現在、社会教育の指導的立場で仕事している。 社会教育委員については、定期的に委員会を開催し情報共有を図ったり、各種社会教育委員研修会への積極的参加を呼び掛けたりした。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度において本町教育委員会内に2名の社会教育主事が在籍していることは、社会教育や生涯学習を推進する上で、大きな力になっていた。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> 社会教育主事の役割は、生涯学習のまちの構築を目指す上で、ますます重要となってくることから、一定期間社会教育を経験した職員に、今後も社会教育主事の資格取得講習会を受講させていきたい。 	


(5) 社会教育団体の活性化・支援

教育重点施策 1 「社会教育団体の活性化・支援」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援・地域福祉等の社会問題、文化教養の向上に資する学習活動などを展開する町婦人会連絡協議会に対して、助言・支援をした。 町子ども会育成会、町青年団などの社会教育団体に対して、支援・援助を行った。 (補助金：子ども会育成会 100 千円、町青年団 50 千円) 全国青年大会に出場する本町の青年団に対し派遣助成 (55 千円) を行った。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> 町子ども会育成会などの社会教育関係団体の自主的な活動に対して支援・助成を行うことにより、社会教育の推進を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> 昭和から平成へと時代が移り変わるにつれ、青年層の地域離れ、就労女性の増加などにより、青年団や婦人会の組織力低下が著しいことから、このような地域コミュニティ団体の支援体制の強化が一層求められている。 	

3 生涯スポーツの推進

(1) 生涯スポーツの活性化

教育重点施策1 「生涯スポーツ振興長期計画の策定」	
平成26年度実施状況	
・生涯スポーツ振興長期計画は、平成26年度は未策定だった。	
評	価
・本町の教育の柱となる「教育大綱」や「教育振興基本計画」の策定を最優先にして進める必要があることから、生涯スポーツに特化した計画のみを先行して策定すべきではないと判断した。	
課題と今後の取組	
・町民が生涯健康で、生きがいを感じて生活が送れるよう、今後、生涯スポーツの推進計画を策定する必要がある。	

教育重点施策2 「青少年の夢を育む活動の支援」	
平成26年度実施状況	
・本町のスポーツ少年団は、現在、野球・サッカー・剣道・柔道・バスケットボール・卓球など、計9団体が結成されている。このスポーツ少年団に補助金を交付し、活動を支援した。(補助金額 計257千円)	
・11月16日(日)、B&G財団からの助成を受け、「郷っこだんぐり育苗体験ツアー」を開催した。(助成額100千円)参加者は、県民の森でどんぐり拾いを体験し、海洋センターでポットへ蒔き付けた。数年後には、町内に植樹する予定。	
	
評	価
・スポーツ少年団指導者が少年期の発達に応じた適切な指導が実施できるよう、講習会等に派遣し、指導者の知識・技術の向上を図った。	
・社会体育施設の適正管理に努め、スポーツ少年団等が施設を利用しやすい環境づくりに努めた。	
課題と今後の取組	
・子どもの体力向上や健全育成といった観点からも、地域に根ざしたスポーツ少年団活動の果たす役割が一層重要となってきたことから、「町・地域・保護者」が互いに連携し、今後も支援・協力体制を推進していく。	

教育重点施策3 「町民の健康・体力の維持増進を図る活動の奨励と支援」

平成26年度実施状況

・子どもの体力向上実践事業として、大郷小学校で「陸上クリニック」を実施した。

実施期間	内 容	参加者数
9月～10月 (3日間)	陸上クリニック 1～3年生 ハンドボール投・基礎練習 4～6年生 走り幅跳び・基礎練習	小学生全員対象
2月(2日間)	ハンドボール教室 ・準備運動(しっぽ取、鳥かご等) ・主運動(ゲーム7分×2本)	小学生5・6年生



・「おおさとスポーツデー」を町海洋センターで実施し、ニュースポーツを体験する機会をつくった。

実施期間	内 容	参加者数
8月9日(土)	おおさとスポーツデー 「ユニカール、シャッフルボード、テニス、水泳・カヌー体験」	約100名

評 価

- ・子どもの体力向上実践事業は、本町では平成16年度から毎年度取り組んでいる。(平成16年度～18年度：文部科学省委託事業、平成19年度～町単独事業)
低学年は、基本的な投げ方を中心に、投げる際の体の使い方などを熱心に受講している姿が見受けられた。
高学年は、走り高跳びを2回実施し、講師先生から指導を受け充実した講習になった。
- ・今年度初めてプールでカヌー体験を実施し、大変好評であった。

課題と今後の取組

- ・子どもの体力向上実践事業によって、児童の体力・運動能力を的確に把握・分析し、児童の体力向上のための実践的な取り組みを推進していく。

教育重点施策4 「地域をつくるスポーツ活動の奨励」

平成26年度実施状況

- ・スポーツで特に優秀な成績を上げた児童生徒に対し、町長及び教育長表彰を行った。
（個人3名、2団体）また、東北並びに全国大会規模のスポーツ大会に出場した個人（児童生徒6名）、団体（中学校女子卓球部）に対し、奨励金を交付した。

評 価

- ・スポーツの習慣化を図るためには、地域で気軽にスポーツを楽しむことができる場所の確保が欠かせない。4小学校の閉校と同時に、大松沢と粕川の旧小学校を社会教育センターとして一般開放しており、特に体育館はスポーツ少年団や地域のスポーツ活動の場として大いに利用されている。

課題と今後の取組

- ・都市化の進展にともない、人と人とのつながりが希薄化する中で、「する」「見る」「支える」といった多様なかかわり方ができるスポーツは、地域コミュニティの活性化や再生につながるものとして期待されており、今後も奨励していく。

教育重点施策5 「生涯スポーツ団体との連携強化」

平成26年度実施状況

- ・町体育協会には、平成26年度現在、柔道・剣道・弓道・卓球・ソフトボール・バスケットボール・ビニールバレーボール・ゲートボール・グラウンドゴルフ・バレーボール・テニス・空手の計12部が加盟しており、それぞれ地域においてスポーツ活動を展開している。これらのスポーツ活動を支援するために、町体育協会に対して平成26年度補助金を計655千円交付した。

評 価

- ・町体育協会の加盟団体は、平成20年度の17団体をピークに、減少傾向にあり、平成26年度はバレーボール・テニス・空手の3部は休部状態だった。

課題と今後の取組

- ・「町教育委員会・町体育協会・地域」の協働により、町民だれもがスポーツに親しむ環境づくりを形成するための事業展開を図る必要がある。
- ・各競技団体の組織育成を図り、団体の主催や主管による各種大会等を実施するための支援体制を強化していく。

教育重点施策6 「町・教育委員会の主催行事の活性化と、活動継続の支援」

平成26年度実施状況

・今年度、町・教育委員会が主催したスポーツ行事は以下のとおりである。

実施期間	内 容	参加者数
4月21日(日)	B & G財団会長杯大郷町招待少年柔道大会	25チーム 130名
7月20日(日)	水辺から学ぶB & G防災安全教室	20名
7月3日(木)～ 8月29日(金)	おおさと水泳教室(参加者多数により2教室開設)	2教室計 40名参加
8月9日(土)	おおさとスポーツデー	約100名
11月2日(土)	親子ふれあいファミリーマラソン大会	139組申込み
12月4日(木)～ 3月13日(木)	おおさと冬期スポーツ教室	39名
1月10日(土)～ 11日(日)	一万人寒稽古(剣道・柔道)	約200名
2月26日(木)～ 27日(金)	B & G財団会長杯大郷町春季ゲートボール大会	13チーム 76名
3月8日(日)	B & G財団会長杯県下招待小中学生大郷町剣道大会	50チーム 250名



評 価

- ・毎年、例年実施している大会のほかに、合併60周年・町制施行55周年記念「親子ふれあいファミリーマラソン大会」を実施したところ、町内外から多数の参加があり、大盛況のうちに実施することができた。
- ・今年度は、海洋センター職員がインストラクターとなり、各種スポーツ教室(水泳教室や冬期スポーツ教室など)を年間通して企画・実施することができた。

課題と今後の取組

- ・今年度は、親子ふれあいファミリーマラソン大会と同日に収穫感謝祭を開催したが、次年度はこれを一本化し、「おおさと秋まつり」として実施していきたい。

教育重点施策7 「ニュースポーツの普及と継続支援」

平成26年度実施状況

- ・スポーツを通じた健康増進を図るため、8月9日、「おおさとスポーツデー」を開催し、多くの町民にフライングディスク、シャッフルボード、スポーツチャンバラなどのニュースポーツ体験をしていただいた。また、今年度はプールでカヌー及びライフジャケット体験も開催し、参加者から好評を得た。
- ・スポーツ推進委員の指導のもと、ニュースポーツ教室を「おおさとスポーツデー」と同日に実施した。
- ・町社会体育施設には、グラウンドゴルフ、ペタンク、キンボール、スカットボール、ペタンクなどの運動用具を揃えており、ニュースポーツの普及のため、地域行事への貸し出しなども随時行っている。

評 価

- ・「おおさとスポーツデー」を実施し、多くの町民がニュースポーツに触れる機会をつくった。
- ・各地区において、ニュースポーツ用具の貸出しが多くなってきている。

課題と今後の取組

- ・ニュースポーツは、今までのスポーツのルールや道具を簡単にして、上手下手、強い弱い、早い遅いに関係なく、中・高年齢の方でも気軽に、すぐゲームができ、適度の運動量があって、しかも楽しむことができることから、生涯スポーツの一つとしてニュースポーツの普及に力を入れる必要がある。

教育重点施策8 「出前活動の推進」

平成26年度実施状況

- ・地域へのスポーツ講座等の出前活動は実施できなかったが、各地区において公民館分館事業としてスポーツ行事を実施しており、ニュースポーツ用具（ペタンク・ユニカール・シャッフルボード等）の貸し出しを行った。

評 価

- ・各地区の公民館分館等からの出前活動の要請がなかったこともあり、地域に出向いてのスポーツ普及活動は実施しなかった。

課題と今後の取組

- ・地域住民が身近なところから健康づくりの活動を充実させるため、今後はニュースポーツなどの「出前活動」をスポーツ推進委員と協力し、地域スポーツの振興に力を入れていく必要がある。

(2) 生涯スポーツ指導者の支援

教育重点施策 1 「生涯スポーツ指導者の支援」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員やスポーツ少年団体指導者などを宮城県等が主催する各種スポーツ指導者研修会に派遣した。 ・本町主催の指導者研修会としては、5月に「おおさと特別救急救命講習会」を実施し、町内スポーツ団体や事業所などから60名の参加を得た。 	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ指導者研修会を通して、町内のスポーツ指導者の資質向上を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの普及を図るため、スポーツ推進委員だけでなく、スポーツリーダーやスポーツボランティアなどの育成・支援を図っていく必要がある。 	

(3) 生涯スポーツ団体の活性化支援

教育重点施策 1 「生涯スポーツ団体の活性化支援」	
平成26年度実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会への支援・助成（平成26年度655千円）を行った。 ・町教育委員会主催のスポーツ事業（剣道大会・ゲートボール大会・一万入寒稽古等）を実施した。 ・町スポーツ少年団本部への支援・助成（平成26年度257千円）などを通して、各スポーツ少年団（剣道・卓球・バスケットボール・ミニバスケットボール・野球・サッカー・柔道等）の育成を図った。 	
	
評	価
<ul style="list-style-type: none"> ・町体育協会や町スポーツ少年団本部への支援・助成などを通して、生涯スポーツ団体の育成を図った。 ・町教育委員会主催事業を通して、生涯スポーツ団体の活性化支援及び各種スポーツの普及・振興を図った。 	
課題と今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団体並びに生涯スポーツ団体の育成強化を図り、スポーツを通して町民が健康で生きがいの持てるまちづくりを推進する。 	

(4) 生涯スポーツ施設の整備と活用促進

教育重点施策1 「生涯スポーツ施設の整備と活用促進」

平成26年度実施状況

- ・平成26年度施設整備状況（スポーツ施設）

事業名	整備内容	事業費
施設修繕事業	海洋センターフェンス更新工事	576千円
施設修繕事業	フラップ大郷21誘導灯修繕	119千円
施設修繕事業	町野球場放送設備修繕	265千円

- ・フラップ大郷21は、平成24年度からトヨタ自動車東日本(株)ハンドボール部のホームアリーナとして、週5日の練習のほか日本リーグなどの大会会場として利用されている。
- ・町の社会体育施設のほか、休日における学校開放事業として、体育館や校庭の利用がなされている。



評価

- ・生涯スポーツを推進するため、各スポーツ施設の整備修繕に努めた。

課題と今後の取組

- ・海洋センタープールろ過機は、昭和60年オープン以来、29年が経過し、老朽化およびろ過不足が見られることから、B&G財団に助成を申請しながら、平成27年度において改修を実施していきたい。

4 文化財

教育重点施策 1 「文化財の理解」

平成26年度実施状況

- ・大郷小学校の「社会科副読本」の中で本町の貴重な文化財を紹介しており、社会科の授業を通して大郷町の歴史や文化財についての理解を深めた。
- ・慶長遣欧使節団が月の浦を出帆して400年。その歴史的価値が改めて注目されていることに鑑み、郷土の歴史研究者であった故佐藤宗岳師が昭和32年に出版した小冊子「支倉常長の墓について」を再版した。

(平成25年度500部、平成26年度500部印刷)



評 価

- ・学校、各種団体、一般町民などが、遺跡等の文化財へ足を運ぶ機会は一年を通して少なかった。

課題と今後の取組

- ・本町の貴重な文化財について、広く理解を深めてもらうため、町の広報紙やホームページへの掲載などを検討していく必要がある。
- ・学校や各種団体、一般町民などに対し、町指定文化財の学習や見学機会の提供を図る必要がある。

教育重点施策2 「文化財の保存・継承」

平成26年度実施状況

- ・町文化財保護審議会委員と共同してパトロールを実施した。(年1回)
- ・町指定文化財の管理業務を地域団体等に委託した。(諏訪古墳、山中古墳、大小寺遺跡、大松沢貝塚、箭楯神社、鹿島神社、支倉常長子孫の墓の7箇所、計200千円)
- ・老朽化した文化財説明板(大窪城址)1基を新設した。
- ・鶴崎古墳群保全のために支障樹木の伐採を行った。
- ・町の無形文化財保存会(羽生田植踊、宮林神楽)に補助金を交付した。(計100千円)



評 価

- ・遺跡のパトロールを実施し、文化財の現状把握に努めた。
- ・無形文化財保存会に対しては、保存・継承のための助成だけではなく、生涯学習フェスティバルなどにおいて郷土芸能の発表の場を提供した。

課題と今後の取組

- ・本町に眠る未指定の文化財の調査・保存を進めていく必要がある。
- ・旧大松沢小学校(現大松沢社会教育センター)を活用して平成27年度中に町歴史資料館を整備する予定であったが、建築基準法等の関係上、多額の改修費用が発生してくることから、資料館そのものの在り方について検討する必要がある。

教育重点施策3 「文化財関係機関(団体)の連携」

平成26年度実施状況

- ・県の文化財関係部署や仙台市博物館などの関係機関との協力・連携を図った。
- ・町文化財保護審議会を開催し、文化財の保全管理等について協議した。
- ・宮城県文化財保護指導員研修会に文化財保護委員と町職員が参加し、研鑽を深めた。

評 価

- ・文化財保護のため、宮城県文化財保護課などの関係機関との情報交換と連携などを図った。

課題と今後の取組

- ・町の貴重な文化財を保全するためには、関係機関や文化財関係者、そして文化財周辺地域住民との連携・協力が一層必要となる。

V 点検・評価に対する学識経験者の意見

【赤坂正夫評価委員による意見】

1 教育委員会の活動状況について

教育委員会では、教育重点施策の中でも、特に「子どもの多様な能力や学習意欲を高め、自立して生きるための基礎・基本の確実な定着を図る」ことを目標に掲げて各種事業を展開すると同時に、毎月1回の定例会に加え、必要に応じ会議の開催、研修会や式典行事への参加、学校訪問など、子どもたちの教育向上のために積極的に取り組んでいる姿勢に対し、心から感謝と御礼を申し上げます。

平成26年度教育委員の在籍者6名となっていますが、社会状況が複雑化している昨今、教育委員の選任にあたっては、今後も従来の慣行にとらわれず、地域住民の代表として、社会経験豊かで教育行政に深い関心と熱意を有する人材の登用に努める必要があると思います。

2 学校教育について

(1) 幼児教育（幼稚園）

めざす幼児像「じょうぶな子ども・なかよくあそぶ子ども・がんばる子ども」を町の教育目標とし、幼・保一体化した保育活動に向け、合同職員会議（毎月）や合同行事の開催、保育の打ち合わせ、町への行事参加、防災安全教育と、まだ成長途上にある幼児を「保育・教育」することは大変困難なことであり、両園の先生方の努力に感謝申し上げます。

特に幼児期は、人間形成に大事な時期であり、「知・徳・体」の調和のとれた子育て支援を今後とも推進していただきたいと思います。

(2) 義務教育（小学校）

①学校教育全般について

学校が統合され数年が経過し、子どもたちの一貫教育体制が整ったことで継続教育指導ができ、学力向上を推進されたことを高く評価します。

「学ぶ力と自力する力」を養うことを目標として、今後も自主学習の定着や「読書タイム」による読書の奨励を図っていただき、子どもたちが読書に親しむことにより、大きく視野を広げ、豊かな心を育むような指導を心掛けていただきたいと思います。

平成26年度と平成27年度の2年間、「小中連携英語教育推進事業」に取り組まれていることは、小・中と学習内容の違いがある中で、学力向上にと

って大変有益な取り組みです。外国語（英語）は、子どもたちの将来のためにも必要不可欠な科目ですので、小・中の教職員の連携した指導を継続していただくことを望みます。

②特別支援教育の充実について

児童一人一人に合った個別の指導計画を保護者とともに立案され、特別な配慮を必要とする子どもたちの支援に努力されていることに対し、深く感謝をいたします。

今後とも、家庭との連携を図りながら、指導計画を立案し、支援と実践に向け、ご指導いただくようお願いします。

課題として、「次年度も特別な支援を要する児童が増える」とされていますが、一人でも多くの子どもたちが自立し、社会参加できるための足掛かりとなるよう、今後も特別支援員（教員補助者）の人的配置をお願いします。

③防災教育の推進について

自然災害がいつ発生するか分からない昨今、常日頃の防災訓練が職員と子どもたちにより年4回実施されていることを評価するとともに、今後も防災教育を続けていただきたいと思います。

なお、協働教育プラットフォーム事業のコーディネーターや地域の協力・アドバイスなどを得ながら実施することも良い方法だと思います。

④教育環境の整備について

魅力ある教育活動を推進するために、地域のボランティアの協力を得て、学童農園や学校田などで体験学習し、汗を流すことは、仕事や大人の苦勞を肌で感じ取ることができ、道徳教育の観点からも大変有益なことです。今後、「食物」に感謝する心を育む指導をしていただきたいと思います。

学校図書の本返却本の整理については、ボランティアの方々をいただいておりますが、今後は子どもたちにも少しずつ整理させることも必要ではないかと思っております。そうすることにより、本を大事にし、物を大切にすることを育つのではないのでしょうか。

（3）義務教育（中学校）

町教育基本姿勢の「学校・家庭・地域社会」が協働による教育を推進するため、運動会や合唱コンクールなどを地域の行事としての側面を持たせ、保護者や地域の方々と触れ合い、共に活動する機会をつくり実践している点を高く評価します。

志教育「人とかかわる」、「よりよい生き方をもとめる」、「社会での役割をはたす」の3つの視点を生徒会活動の「自治活動」に関連づけた教育活動を実践され、「豊かな人間性や社会性の育成」という目標達成に向け活動して

いただきたいと思ひます。

生徒の体力向上につなげる「食」への意識を高め、保健管理等にも配慮されており、教育委員会や学校の取り組みを高く評価します。今後も生徒の学力・体力のバランスの取れた事業を推進していただきたいと思ひます。

※幼稚園・小学校・中学校の共通事項

幼稚園、小・中学校の共通課題として、「学校・家庭・地域」が協働で子どもを育てる仕組みづくりをもっと進める必要があると感じています。地域の優れた知識や技術を有する方々を学校に講師として招いたり、町内企業（事業所）の職場体験を行ったりして、大人が働く姿に触れたり、地域にある職場への関心を高めたりする教育も必要だと思ひます。

また、親子の対話が少ない家庭も多いと思ひますので、子どもと親が話し合う機会を増やすような指導をお願いします。

「“地域に開かれた学校”、“地域と交流を深めた協働教育”、“地域に根差した学校”」を創り上げることを望みます。

今、社会問題になっている子どものいじめは、生徒間の人間関係が起因しており、その防止対策にも対応できるような教育と道徳のご指導等をお願いします。

3 社会教育について

各分野において特徴を持たせながら、地域の方々の支援・協力を得て社会教育を推進しており、事業に携わり努力されている関係各位に対し深く感謝の意を表します。

宮城教育大学との連携による課外授業については、個々に応じた指導を実践していただいております、ボランティアの学生にとっても良い教育実習の場になっているものと思ひます。引いては、本町の児童生徒の学力や学習意欲の向上にもつながる活動ですので、今後も事業の継続を望みます。

また、放課後子ども教室（郷子舎）事業、青少年教育事業と、多くのボランティアの支援と協力のもと事業を推進しており、各関係者の取り組みを高く評価します。

今後も、町民とともに生涯学習事業と青少年健全育成事業を推進していただきたいと思ひます。

4 公民館活動の充実について

町民の地域交流の場、そして多くの人たちに希望と学習の場を与えるために各種公民館事業を推進されていることを高く評価します。

町内各地区の分館活動が低迷している要因としては、少子高齢化なども影

響していると言えますが、各地域団体に添った活動を考えてみることも良いと思います。

5 生涯スポーツ推進について

町民が生涯健康で生きがいを感じて生活が送れることを目標に推進されている「子どもの体力向上事業」、「スポーツ少年団の活動推進」、「親子ふれあいファミリーマラソン大会」、「中・高齢者向けのスポーツ大会」など、年間を通して企画・実施されていることを高く評価します。今後もスポーツの普及活動に努力していただきたいと思います。

本町でも今後高齢化が進む中で、雨天時でも体力向上が図れる場所として、旧小学校（大松沢・粕川・味明）を整備して活用してほしいと考えます。

今後も“健康で高齢者でも社会活動ができる大郷町を目標に”

6 文化財について

大郷町の貴重な有形・無形の文化財を保存・継承するため、管理・調査しながら現状把握に努められるとともに、町の生涯学習フェスティバルなどで郷土芸能を発表されていることを評価します。

今後も町内外に広く理解を深めていただくための広報活動を図るとともに、未来を担う子どもたちに本町の歴史・文化財を理解させることも続けていただきたいと思います。

本町に眠る未指定の文化財の調査・保存を進めることは大事なことです。保存・展示する資料館の設置場所についてはまだ検討途上にあると推測されます。交通の面、人の集中する場所を考慮していただき、一極集中を促したいと考えます。

【 渡邊文子評価委員による意見】

私自身に子育ての経験がなく、教育関係の現場での直接的な関わりのない者が、「評価云々」を申し上げることはできませんが、大郷町を愛する一町民、文化団体の一会員としてぎくばらんな（的はずれなことになるかも知れません）印象を述べたいと思います。

年間を通しての盛りだくさんの事業、それも細部にわたり多種多様な内容。素人目にもこうした大変な教育行政に、長年携わる方々のご苦勞とご努力に頭が下がる思いがいたします。

義務教育の教育重点施策8「幼・小・中一貫教育の充実」が年次ごとに着実な成果を見せているのは、町と教育機関、地元住民との不断の地道な活動のたまものと、「小さい町」ならではの血の通った教育が進められていることに、大いに誇りを感じております。

が、気がかりなことがひとつ。それは教育への熱意をもってカリキュラムの消化に頑張る先生方が、多忙に陥り「ゆとり」のない職員生活に悲鳴を上げてはいないだろうか……ということです。

昭和世代の私どもからみると、今の時代は子どもさん一人にかける教育濃度が非常に高く（ご父兄も同様に）それはそれで喜ばしいことではあります。が、逆に、子どもの時に経験する不足や不便、不自由、不ぞろい、不遇など、一見マイナスに見えるものが、長い人生には「必要」であることが、間々あります。

周囲の町村が急激に都市化の様相を呈する中、過疎地で所得水準が低く、高齢者が急増という大郷町の前途はなかなか厳しいものがありますが、それを逆手に取り、成熟期に入った日本の中にあって「地域こそ全ての源」という発想の下に、大郷町に新しい風を起こす、地元で根を下ろす頼もしい後継者たちがたくさん現れることを願ってやみません。

蛇足になりますが、ある日の某新聞記事に目を奪われ、走り書きしたメモをご紹介します。

全国小学校の県別学力テストランキング、国語Aのトップは秋田、2位青森、3位石川、4位福井、同4位広島、国語Bのトップは秋田、2位石川、3位福井、4位富山、5位青森。

東北の2県が堂々の上位、何でも秋田はここ数年連続トップだそうです。2位以下も決して経済的に裕福というわけでも、交通事情が良いとか、他がうらやむような恵まれた土地柄ではない県が多いのが驚きです。

一般的に言われている負の要素が、学力向上とは必ずしもつながらないという興味深いデータでした。

勉学、スポーツ、文化芸能、いずれの分野であろうとも、大郷町のめざす「幼・小・中一貫教育の充実」にヒントとなるものが、こうした結果に見い出せるような気がいたします。

【大久保せち子評価委員による意見】

1、はじめに

平成26年度教育委員会の事務事業について、この度初めて目を通し繰り返し事業内容を読ませて頂きました。教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般が、このように緻密に行われ活発な活動と教育行政の素晴らしい取組に感謝と敬意を表します。

点検・評価にあたり、自分が今まで関わっていた分野ばかりでなく、主任児童委員としての立場や協働教育プラットフォーム事業のコーディネーターの視点からの意見として、次年度に生かして頂ければ幸いです。

2、学校教育の充実について

(1) 幼児教育（幼稚園）

幼稚園は、町内4園を統合してから12年経過し、幼保の共通認識「大郷町の幼児を保育する」のもと、同じ「めざす幼児像」を掲げ保育に取り組まれているのは素晴らしい事です。同じ敷地内とはいえ、目的が異なる幼稚園・保育園・子育て支援センターが一体化して保育活動を推進していくのは、現在の教育情勢や保護者のそれぞれの園への期待感を考えると大変なことと思います。困難を互いに協議する姿勢で連携していく努力を評価します。

年長児交流保育「すくすくタイム」や、合同行事の開催について積極的に推進し、夏季休業時の預かり保育時の給食提供（保育園から幼稚園へ）等、子どもたちを第一に考えた経営面での交流意識の高まりを評価します。

課題と今後の取組にあった、次代を担う子どもたちの健やかな育成に向け、各園の特色を生かした大郷方式の一体化した保育の実践と、スムーズに小学校に入学できるような引継ぎ方法・その後の小中まで一貫した連携の工夫に引き続き期待します。

(2) 義務教育（小学校）

「創意と活力に満ち信頼される学校教育の推進」等を教育重点施策に掲げ、特別支援教員補助者を配置し、年々増えている支援を要する児童への配慮、また各クラスで適応指導の必要な児童を「きらぼし教室」に於いて個別の学習を行う等、児童一人一人を重視したきめ細やかな取組が見られました。

スクールバスを利用して、各学年で自然体験学習や社会見学などを年間に18カ所（37台）も実施できたのは、校外学習を通して「豊かな人間性や社会性の育成」を目指している学校現場を理解し、協力的な教育委員会の姿勢にあると高く評価します。

学校支援ボランティアを教育的に活用され、「スクールバス乗降ボランティア」「ミシン・裁縫指導補助ボランティア」「読み聞かせボランティア」等に伺い来校すると、輝く子どもたちの笑顔と元気な挨拶に出会います。「学校に行って逆に元気を頂いて来た」という声が聞かれる程、地域の方々が「学校」「子どもたち」に関わることによって得られる互いの教育的な交流効果は大です。

また、今回平成26年度の課題と取組に、学校の情報発信となるホームページがない事があげられていましたが、平成27年度がスタートしてさっそく立ち上げたと伺い、そのスピーディな対応に敬意を表し感謝します。小学校統合から4年目に入り、それぞれの4小学校の校歌も取り入れた保護者の母校愛を大切に考えて制作して頂き、大郷小学校としての基礎が更に確立されると確信しました。平成27年度からの町民への情報発信に大いに活用して欲しいと願います。

(3) 義務教育（中学校）

主任児童委員として、4月の入学式から始まり、運動会、合唱コンクール、生涯学習フェスティバルとおおさと夏祭りへの参加、そして3月の卒業式と、年間の生徒たちの活躍と先生方の積極的な教育姿勢に触れ「創意と活力に満ち信頼される学校教育の推進と充実した学校運営」に感動し敬意を表します。

一般的に中学校に入ると、携帯電話やスマートフォンを所持する生徒が増えます。社会問題としてそれらから発生する睡眠不足や様々な問題が生じてトラブルの原因にもなっていますが、大郷中学校も例外では無いはずですが、その対応として学校でも徹底した指導と保護者への働きかけも十分行われていると思いますが、教育委員会が掲げる「家族の日」NO MEDIA TIMEを積極的に活用・具現化する事により、家族・人・故郷を愛する心豊かな生徒を育てて欲しいと願います。

(4) 学校給食

新鮮な地場農産物や旬の食材を活用したり、子どもたちの要望を取り入れたリクエスト給食を実施したり「安全でおいしい給食の提供」が実践され、関係機関と意見や情報の共有化がされていることに感謝します。また、幼稚園、小学校、中学校に直接栄養士さんが出向き、給食に対する理解を得るための活動を行い、給食時の子どもたちの様子を把握しながら献立作成するのは大変と思いますが今後も継続して頂ければと願います。

園児・児童・生徒の身体の発育発達に貢献して頂いている給食センターの方々の努力を高く評価し、教育委員会には、建設後17年経過し老朽化した施設・設備の計画的な整備に早急に取り掛かって頂きたく願います。

3、社会教育について

公民館職員・B&G海洋センター職員が中心となり各分野で町民へ社会教育の重要性及び啓蒙と充実を図るために、日夜努力している姿を目にします。「社会教育の活性化」「芸術・文化活動の推奨」「家庭及び教育力向上と活性化」「青少年教育の充実」等、多くの子どもから大人・幼児から高齢者対象の教室や講座を開催し家庭・地域・学校を結ぶ架け橋になっています。

公民館活動の充実に於いて、教育重点施策1から7までの平成26年度実施状況を点検しても町民の期待に答えて目的達成に向けた努力と成果が表れていました。引き続き課題解決に向けての取組と町民の拠り所となる場の提供に期待します。

4、生涯スポーツの推進について

生涯スポーツの推進に於いて「生涯スポーツ振興長期計画の策定」は教育振興基本計画を最優先していますが、高齢化社会を迎えた社会情勢からすると大郷町も先を見据えて、町民が生涯健康で生き甲斐を感じる生活が送れるよう、早急な計画作成の取組についてご検討願います。

子どもの体力向上や健全育成といった観点からも「青少年の夢を育む活動の支援」の果たす役割は大です。子どもの数が減っている中で地域に根ざしたスポーツ少年団の存続が危ぶまれています。「町・地域・保護者」の連携と協力体制の強化に期待しています。また、スポーツリーダーやスポーツボランティアの育成を支援するのも、今後のスポーツの普及に大きな役割を果たすと考えますので、これからの取組について関係者への理解と支援のあり方をご検討ください。

「町・教育委員会の主催行事の活性化と活動継続の支援」では、例年実施している大会のほかに「親子ふれあいファミリーマラソン大会」として合併60周年・町制施行55周年記念大会を開催し、町内外の参加者で大盛況だったのは町のPRと活性化にも繋がり喜ばしい限りです。次年度は「おおさと秋祭り」として「収穫感謝祭」と「親子ふれあいファミリーマラソン大会」を一本化した行事にするという事で、町民として新しい企画を楽しみにして期待しています。

5、文化財について

「文化財の理解」「文化財の保存・継承」等の実施状況には、学校、各種団体、一般町民が遺跡等の文化財へ足を運ぶ機会が少なかった事が指摘されています。各種公民館講座の中に遺跡や史跡の学習と見学を提供する機会も見られました

が参加者募集に苦戦し少なかったように聞きます。とても良い内容でも広く理解して貰うという成果は期待できません。子どもたちや町民に広く理解を深める方法として、効果的な広報誌の活用やホームページへの掲載等を是非検討して頂けたらと考えます。読み聞かせボランティア「どんぐりの会」でも、地域に残る民話、言い伝えの歴史について幼稚園・小学校で依頼があると取り上げて郷土愛を育む心の教育の手助けをしていますので、関係機関のご指導とご協力があればより充実した内容で紹介し、活動に幅が広がるのではと考えます。

6、おわりに

日頃ボランティア活動を通して教育現場を訪れる機会があります。「まちづくりは人づくり、人づくりは教育」の大郷町教育基本方針の姿勢にありますように、子どもたちが明るくのびのびと成長している姿をみて安心します。

私たちには、子どもたちが「この町に生まれて良かった」「この町に住みたい」と思えるような街づくりをしなければならない責任があります。町民一人一人が生涯を通し自分を磨き、魅力ある街づくりへの参加意識を高めて行けるような教育委員会職員の方々のリーダーシップに期待します。

幼稚園・小学校・中学校が統合され幼小中一貫教育の基盤が整い喜ばしい事ですが、一定の敷地でない事から発生する問題と課題は大きく、充実した教育効果を上げる事が並大抵ではない事が推測されます。教育委員会には、それぞれの教育現場の課題と取組に向き合い、各教育現場が問題解決に向け交流の機会が持てる参加体制を整えて頂ければと考えます。定期的な情報交換の場の設定で、他の市町村には無い離れた現場を絆で結ぶ“独自の大郷方式幼小中一貫教育”を築かれる事に期待します。